

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 13 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(S)

研究期間：2017～2021

課題番号：17H06151

研究課題名(和文)住環境が脳・循環器・呼吸器・運動器に及ぼす影響実測と疾病・介護予防便益評価

研究課題名(英文)Field survey on Impact of living environments on brain, cardiovascular, respiratory and locomotive system, and co-benefit evaluation of disease and long-term care prevention

研究代表者

伊香賀 俊治(Ikaga, Toshiharu)

慶應義塾大学・理工学部(矢上)・教授

研究者番号：30302631

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 159,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では住環境の改善による健康寿命延伸効果に着目し、大規模なフィールド調査と追跡・介入調査によって、住環境が脳機能、血圧、循環器系疾患、呼吸器系疾患、運動能力、要介護状態など健康に及ぼす影響を定量的に明らかにした。青壮年期～中年期を対象とした調査では、自宅環境と居住者の家庭血圧、脳MRI撮像データ、睡眠状態、体温、身体活動量、心拍、呼吸機能等との関連の検証に加え、オフィスでの知的生産性の検証を行った。日中の知的生産性はオフィス環境そのものの影響のほか、前日の自宅での睡眠・休息が影響するため、良質な自宅・オフィスの環境がもたらす相乗効果に関する被験者実験を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、建築学、医学の専門家が国・自治体・企業・住民と連携して、日常生活での住環境測定、血圧・活動量・睡眠等の健康データ測定を大規模に横断・縦断調査を行う点に特徴がある。また、環境因子を人為変化させた被験者実験も組み合わせることによって、住環境が人体に及ぼすメカニズムも明らかにし、個人の住環境改善を促すだけでなく、国・自治体の住環境・健康政策の科学的根拠になり、超高齢社会を迎える中でより望ましい住環境の創出に貢献する点で社会的意義があると考えている。

研究成果の概要(英文)：This study focuses on the effect of extending the healthy life span, which is a Co-Benefit by improving the living environment, and by conducting a large-scale field survey and follow-up / intervention survey, the living environment is affected by brain function, blood pressure, cardiovascular disease, and respiratory disease. Quantitatively clarified the effects on health such as athletic ability and need for nursing care. In the survey targeting the youth to middle age, in addition to verifying the relationship between the home environment and the resident's home blood pressure, brain MRI imaging data, sleep state, body temperature, physical activity, heart rate, respiratory function, etc. We verified the intellectual productivity in the office. Since daytime intellectual productivity is affected not only by the office environment itself, but also by sleep and rest at home the day before, we conducted a subject experiment on the synergistic effect of a good home / office environment.

研究分野：建築環境工学

キーワード：住宅断熱 住宅温熱環境 健康寿命 コホート調査 介入調査 健康便益

1. 研究開始当初の背景

住宅の寒さによる健康全般への影響、メンタルヘルスへの影響、空気質・ダンプネスによる呼吸器疾患への影響など住宅と健康に関する研究は特にイギリス、ニュージーランドで進んできた。しかしそれらの既往研究の多くが主観指標による評価であるため、実測に基づく客観的エビデンスが必要と示唆されている。一方、気候変動に関する政府間パネル (IPCC) 第5次・第3作業部会報告書の第9章では、健康性、知的生産性の副次的経済便益 (コ・ベネフィット) の可視化が建築分野の脱炭素化の推進に有効であることを指摘している。

2. 研究の目的

上記の背景を踏まえ、本研究は、断熱性能などの住環境改善が脳・循環器・呼吸器・運動器に及ぼす影響に関する科学的根拠を獲得すること、さらに、住環境改善による疾病・介護予防便益評価手法の確立を目的とする。

3. 研究の方法

研究代表者は、JSPS 科研費の基盤研究(S)に先立ち、挑戦的萌芽研究と2度にわたる基盤研究(A)、JSTの革新的研究開発推進プログラム、戦略的創造研究推進事業の研究代表者として、長年にわたる継続的な研究によって、高知県(梶原町 1,000人・16年間)、山口県(長門市等 400人・5年間)、長野県(東御市後期高齢者 200人、小布施町 500人・5年間)、愛媛県(新居浜市 3,000人・5年間、松山市 1,200人・5年間)、福岡県(北九州市 900人・5年間)、東京都(多摩市 20,000人・10年間)、神奈川県(川崎市小学生 1,000人、藤沢市 2,000人)、山梨県(上野原市 1,300人・5年間、大月市後期高齢者 200人)、熊本県(幼稚園児 1,000人)、大阪府・京都府・奈良県(後期高齢者 1,000人)、30都府県(3,000人の住宅室温・血圧・活動量実測)等の調査研究実績を基盤として、自治体(首長、医療福祉、教育、建築などの各部局)、地域住民との良好な関係のもとに、住環境と健康に関する3万人規模の調査基盤、5千人規模の血圧・睡眠・活動量・疾病と住宅温湿度等の実測調査基盤を構築してきた。この基盤をもとに、大規模なベースライン調査 (Step1)、コホート・介入調査 (Step2)、住環境改善による疾病・介護予防便益評価 (Step3) を行った。

Step 1. ベースライン調査

研究チームは、これまで国、自治体、企業、住民との良好な関係のもとに、さまざまな住環境が、幼児から高齢者まで幅広い年齢層の住民の健康指標に与える影響に関するベースライン調査を拡充する。

Step 2. コホート・介入調査

Step 1 の調査対象者について、数年後のコホート調査、新築・改修による住環境改善の介入調査を行う。

Step 3. 疾病・介護予防便益評価

Step 2 の研究成果と公的統計の原票データを組合せ、住環境改善による疾病・介護予防便益評価を1世帯あたりで行うほか、全国及び基礎自治体毎の中長期予測を行う。

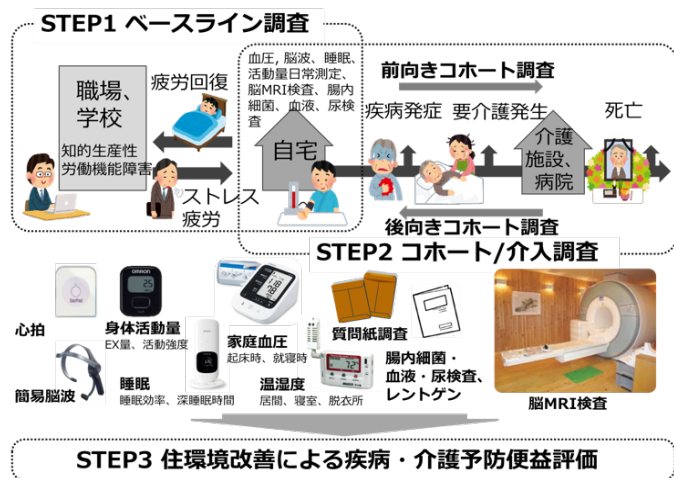


図1 住環境が健康に及ぼす影響の研究方法



図2 幼年期から終末期までの住環境が健康に及ぼす影響調査方法

また、多くの専門分野にまたがる研究であるため、建築都市環境工学（伊香賀俊治・白石靖幸・安藤真太郎・川久保俊）、都市計画学（伊藤史子）、脳科学（満倉靖恵・山川義徳）、循環器内科学（荏尾七臣・星出聡）、呼吸器内科学（福永興老）、衛生微生物学（渡辺麻衣子）、運動疫学（小熊祐子）、救急医学（鈴木昌）、看護学（福島富士子）、公衆衛生学（星旦二・中村裕之）、産業衛生学（藤野善久・久保達彦）で研究を進めた。さらに、WHO Housing and Health Guidelines 策定委員長の Philippa Howden - Chapman 教授（オタゴ大学公衆衛生学部）、Agneta Malmgren Fänge 教授（ルンド大学医学部）と連携して研究を進めた。



図3 建築学・医学共同研究体制

#### 4. 研究成果

本研究では住環境(住宅や地域)の改善による Co-Benefit である健康寿命延伸効果に着目し、大規模なフィールド調査と追跡・介入調査によって、住環境が脳機能、血圧、循環器系疾患、呼吸器系疾患、運動能力、要介護状態など健康に及ぼす影響を定量的に明らかにし、我が国の住宅と健康ガイドライン策定、住環境対策を含む健康政策の科学的な根拠を提示した。

主な調査対象地は、高知県(梶原町、高知市)、山口県(長門市)、福岡県(北九州市)、愛媛県(新居浜市)、東京都(渋谷区)、山梨県(上野原市、大月市)、大阪府(堺市)、広島県(広島市)、三重県(津市、伊勢市)、熊本県(熊本市)、石川県(志賀町)などで全国に及ぶ。これまで3年間さまざまな世代を対象として自宅と自宅以外の環境が居住者の健康に及ぼす影響の調査を目的とした横断面調査の補充ならびに、研究代表者らの科研費基盤 A (23246102、26249083) から実施してきた経年調査(縦断面調査)、住環境・執務環境の建替・改修前後調査(介入調査)を実施した。

具体的には、青壮年期～中年期を対象とした調査では、自宅環境と居住者の健康(客観指標: 家庭血圧、脳 MRI 撮像データ、睡眠状態、体温、身体活動量、心拍、呼吸機能等)との関連の検証に加え、オフィスでの知的生産性の検証を行った。日中の知的生産性はオフィス環境そのものの影響のほか、前日の自宅での睡眠・休息が影響するため、良質な自宅・オフィスの環境がもたらす相乗効果に関する被験者実験を行った。また、自宅と自宅以外の環境の相乗効果は幼・少年期にも存在するため、幼稚園・小中学校での活発な身体活動と自宅での良好な睡眠が及ぼす病欠確率と学習効率への影響を調査・分析した。環境側の調査項目としては温湿度、一部調査で光・音・空気環境、カビ・ダニ測定等を行った。特に、2019 年度には、高知県梶原町において、無作為抽出された町民 1000 人(町民の約 1/3)を対象として研究代表者らが住環境・生活習慣と健康に関する長期コホート調査の 10 年経過後調査を終え、一部学術論文として発表した。

本研究成果のハイライトを以下に示す。

##### (1) WHO 勧告 18℃を満たさない住まいが 9 割

亜熱帯の沖縄県を除く全国 2,190 世帯の居間、寝室、脱衣所(≒廊下等非居室)の冬季室温測定値を分析したところ、WHO 勧告 18℃を、在宅中の居間平均室温で満たさない住まいが 6 割、居間の最低室温、寝室の就寝中平均室温、脱衣所の在宅中平均室温で満たさない住まいが 9 割を占めている。ちなみに全国約 5,000 万戸のうち現行省エネ基準に適合していない住まいの割合 9 割(国土交通省 2018 年度推計)とも対応している。また、都道府県別の在宅中居間平均室温で最大で 6.7℃の差(北海道 19.8℃、香川 13.1℃)があり、寒冷地ではなく温暖地で室温が低く、省エネ基準適合住宅が普及していない温暖地の課題が明らかになった。さらに世帯所得 600 万円以上に比べて 200 万円未満の住まいの室温が 18℃未満となるオッズは 2.1 倍であり、健康格差につながる経済格差が室温格差にも現れている。日本の寒すぎる多くの住まいを冬はいつでもどこでも 18℃以上に保たれるような住まいのストックの改善が求められている。

##### (2) 高血圧を予防する暖かな住まい

起床時の室温と起床時最高血圧との関係は男性の場合、起床時室温が 10℃の家に比べて、20℃の家では、30 歳で 3.8mm、80 歳で 10.2mm 血圧が低く抑えられ、女性の場合には 30 歳で 5.3mm、80 歳で 11.6mm 低く抑えられることを示している。また、血圧が最も低くなる室温は、男性では 30 歳が 20℃、80 歳が 25℃、一方、女性では 30 歳が 22℃、70 歳が 25℃であることも示している。WHO も勧告している通り、高齢者ほど、また女性ほど住まいを暖かくすることの大切さを示す結果である。



### (3) 血圧変動を緩和する断熱性能の良い住まい

室温の不安定さ（変動の大きさ）を、室温の ME 差（夜間の低下量）と室温の SD（標準偏差）で 6 群に分類した。各群の血圧の ME 差（日内変動の指標）と血圧の SD（日間変動の指標）を比較した結果、室温の不安定な群ほど血圧の日内変動、日間変動ともに大きくなることが示された。外気温の不安定さは血圧変動に影響しなかった。

### (4) 高血圧を緩和する住まいの断熱改修

国から工事補助金を受けて断熱改修したことによって起床時最高血圧は平均で 3.1mmHg 低下した。高血圧患者は断熱改修による血圧低下量が更に大きく、7.7mmHg 低下であった。「健康日本 21（第二次）」が掲げる生活習慣の改善による平均 4mmHg 低下の数値目標に匹敵するもので、住まいの断熱改修の重要性を示唆している。

### (5) 健康診断数値も良い暖かな住まい

冬季の住宅内温熱環境と健康診断数値の関連について、年齢、性別、BMI、世帯所得、塩分摂取、野菜、運動、喫煙、飲酒、降圧剤、外気温、健診受診季節を調整変数とした統計分析した結果、以下のことがわかった。

- ① 就寝中は寝室室温、それ以外の在宅中は居間室温が 18℃以上の家を基準として、総コレステロール値が基準値以上となる人の割合は、12℃以上 18℃未満の家では 1.37 倍(95%CI: 1.01-1.86, p=0.040)、12℃未満の家では 1.60 倍(95%CI: 1.10-2.27, p=0.013) 有意に多い。
- ② 脂質異常症の判断基準とされる Non-HDL コレステロール（総悪玉コレステロール）が基準値以上となる人の割合は、12℃以上 18℃未満の家では 1.52 倍、12℃未満の家では 1.65 倍 有意に多い。
- ③ 心電図の異常所見がある人の割合は、12℃以上 18℃未満の家では 1.83 倍、12℃未満の家では 2.07 倍 有意に多い。

### (6) 過活動膀胱患者割合が少ない暖かな住まい

患者数が約 800 万人以上と推計されている過活動膀胱は、睡眠の質低下、夜間に寒く暗いなか、トイレに行く途中での転倒・骨折、循環器系疾患を増やすことが懸念される。就寝前の居間室温が 12℃未満の寒い住まいでは、18℃以上と比較して、過活動膀胱患者が 1.44 倍であった。また、断熱改修後に就寝前居間室温が上昇した住まいでは過活動膀胱患者が半減する短期的な効果を確認した。

### (7) 睡眠の質が良い暖かな住まい

国民健康・栄養調査（2018）によると、成人の 4 割が 1 日の睡眠時間が 6 時間未満であり、かつ年々短くなる傾向にあるとされる。しかし、日本の住環境が睡眠に与える影響については知見が乏しい。そこで、2014 年から 4 年間の調査有効サンプル 2,193 名を対象に線形回帰分析を行った。寝室の寒さ・乾燥の自覚とピッツバーグ睡眠調査票による睡眠の質との関連を検討した。その結果、寝室が寒い、乾燥していると自覚する者ほど睡眠の質が有意に低いことが明らかとなった。

### (8) 健康関連 QOL が良い総合的に優れた住まい

CASBEE すまいの健康チェックリストによる住環境スコアと SF8 による身体的・精神的サマリースコアとの関連を 2015 年度の調査有効サンプル 2,765 名を対象に、年齢、疼痛、基礎疾患、喫煙、飲酒、居住年数、在宅時間で調整の上、線形回帰分析を行った。その結果、温度（冷房が効かず暑い）、騒音（家の外の音が気になる）、照度（室内が暗い）、衛生（においとカビ）、安全（家具が危険）、防犯（外の視線が気になる）に問題がない住環境の人々は QOL が高いことが明らかとなった。

### (9) 身体活動量が多い暖かな住まい

座位行動（座りすぎ）は、身体活動とは独立した総死亡や心血管疾患、2 型糖尿病などの非伝染性疾患のリスク要因である。日本は世界 20 か国のうち座位時間が最も長いという報告もあり、座りすぎを如何に解消するかが喫緊の課題となっている。コタツを使用しないで済む暖かな住まいでは、座位行動時間が約 2% 有意に短く、中断回数が約 10% 多く、身体活動量が 5~7% 多いことがわかった。

### (10) 子どもの疾病が少ない暖かな住まい

関東~九州の住宅に 1 年以上居住している子育て世代（20~40 代）の女性を対象とし、住宅内温熱環境と女性・子供の健康に関する自記式質問紙調査を実施した（有効サンプル 763 世帯 934 名）。居間の寒さあり、かつ乾燥ありの住宅の子供と比べ、居間寒さなしかつ乾燥なしの住宅の子供は昨年度冬季に 1 回以上発熱したオッズが有意に 0.3 倍(95%CI 0.13-0.51, p < 0.001\*\*\*)、1 回以上風邪をひいたオッズが有意に 0.6 倍(95%CI 0.37-0.95, p = 0.030\*)であった。さらに暖房方式に着目し、分析を行った結果、居間におけるメイン暖房方式が対流式暖房の住宅の子供と

比べ、床放射式暖房の住宅の子供は昨年度冬季に1回以上発熱したオッズが0.5倍の傾向(95%CI 0.28-1.05,  $p = 0.071$  †)、1回以上風邪をひいたオッズが0.6倍の傾向(95%CI 0.32-1.01,  $p = 0.054$  †)であった

#### (11) 転倒・虚弱リスクが低い暖かな住まい

自宅からデイサービス施設に通う大阪府、高知県、山梨県の在宅要介護高齢者342人を対象として、寒い住まい(居間平均室温14.7℃)と暖かな住まい(居間平均室温17.0℃)に加えて経済的満足度(不満群と満足群)でも群分けし、転倒リスクと虚弱(フレイル)リスクを分析した。暖かい住宅に住み、経済的な満足度の高い人は、転倒リスクと虚弱リスクが共に有意に低いことがわかった。

#### (12) 要介護認定年齢が3年遅い2℃暖かな住まい

前項で紹介した在宅の要介護認定高齢者と介護施設に協力していただき、要介護認定履歴、生活習慣、住まいの状況(一部で温湿度連続測定)を調査・分析(有効回答205人)した。要介護認定平均年齢は、寒い住まい(居間平均室温14.7℃)では77.8歳に対して、暖かな住まい(冬季の居間平均室温17.0℃)では80.7歳であった。すなわち、冬季に室温を約2℃暖かく住むことによって要介護認定年齢を約3年遅くし得ることを示している。さらに、暖かい住まいの在宅要介護高齢者の1年後の悪化リスクは、寒い住まいに比べて2.8分の1であった。

#### (13) 要介護度重度化リスクを低減する冬暖かく湿潤な介護施設

大阪府・京都府・奈良県・兵庫県に所在し、介護サービスが類似する同一法人の有料老人ホーム20施設・988名(有効サンプル14施設・524名)を対象として、冬季の温湿度測定、質問紙調査、介護記録調査を行い、日本建築学会編の「高齢者に配慮した熱環境基準値」に基づいて冬季の室温と湿度で群分けし、分析した結果、下記がわかった。

- ① 温暖施設(居間・食堂 23±2℃、個室 20±2℃)に比べて、それを満たさない寒冷施設では、入居後の要介護度重度化リスクは有意に1.5倍大きい。
- ② 湿潤施設(居間・食堂・個室ともに30~50%)に比べて、それを満たさない過乾燥施設では、入居後の要介護度重度化リスクは有意に2.0倍大きい。なお、相対湿度は年間を通して40~60%に保つことが推奨されているが、調査対象施設の多くが冬季の加湿不足のために40%を下回っていたため、本研究では30%を閾値とした。
- ③ 室温が低いこと以上に、湿度が低いことが入居後の要介護度重度化への影響が有意に大きい。
- ④ 高齢者介護施設の高断熱性能化・省エネルギー性能向上は、冬季の室温・湿度を適性範囲に保ち、入所者の要介護度重症化リスクの低減にも資するとともに脱炭素化にも貢献し得る。

#### (14) 脳の萎縮、神経機能の低下が少ない暖かな住まい

高知県梶原町の40歳以上の男女90名を対象に、2016年10月上旬から2018年2月にかけての2度にわたる横断的調査と2年経過後の住宅内温湿度測定、脳MRI撮像・分析、簡易脳波計測を含む身体測定、呼吸機能測定を行った。その結果、脱衣所室温が低い群において2年経過後の脳灰白質容積が有意に減少していることを確認した。断熱性能の低さが脳機能の低下に影響を及ぼしている可能性を示した。

#### (15) 10年後の高血圧発症リスクを半減する暖かな住まい

高知県梶原町(人口3,539名、高齢化率は44%)の住民基本台帳から無作為抽出された町民1,137名のうち、2009年と2019年の二時点の欠損のない677名の有効サンプルについて、2009年より開始した10ヵ年追跡調査に基づいて、室温測定値と高血圧の申告によって寒冷曝露と高血圧の10年間の発症の関連検証を行った。その結果、最低気温平均が3.2±3.1℃であった期間中に、起床時室温が13℃未満となっている住まいの居住者は、10年間の高血圧発症となる確率が1.83倍となる関係が示され、寒冷曝露が発症を助長する可能性が示唆された。

#### (16) 10年後の循環器死亡リスクを半減する暖かな住まい

高知県梶原町の住民基本台帳から無作為抽出された町民1,137名のうち、2018年までに途中転出・転居した者(194名)と循環器疾患以外の死亡者(111名)を除外した最終的な分析対象者を生存者(796名)と循環器疾患による死亡者(32名)の計832名を対象として、10年後の循環器死亡リスクを分析した。その結果、古く断熱性能が悪い住宅に住む者は循環器疾患死亡リスクが1.13倍高まることが確認された。さらに、結露が発生するほど寒冷な住まいの人の循環器疾患死亡リスクが3.7倍高く、暖かい住まいの効果が示唆された。

暖かな住まいと健康に関する最新の研究成果を報告した。我が国の住まいの断熱改修を推進し、健康寿命の延伸につなげるためのエビデンスを提供した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計38件（うち査読付論文 35件／うち国際共著 2件／うちオープンアクセス 28件）

1. 著者名 Umishio Wataru, Ikaga Toshiharu, Kario Kazuomi, Fujino Yoshihisa, Suzuki Masaru, Hoshi Tanji, Ando Shintaro, Yoshimura Takesumi, Yoshino Hiroshi, Murakami Shuzo, on behalf of the Smart Wellness Housing survey group	4. 巻 29
2. 論文標題 Association between Indoor Temperature in Winter and Serum Cholesterol: A Cross-Sectional Analysis of the Smart Wellness Housing Survey in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Atherosclerosis and Thrombosis	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5551/jat.63494	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 星 旦二、伊香賀 俊治、海塩 渉、藤野 善久、安藤 真太郎、吉村 健清	4. 巻 69
2. 論文標題 冬季における住宅内室温と外気温の実態とその関連：SWH横断調査	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本公衆衛生雑誌	6. 最初と最後の頁 297～306
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11236/jph.21-077	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Odgerel C, Ando S, Murakami S, Kubo T, Ishimaru T, Fujino Y, Ikaga T	4. 巻 83
2. 論文標題 Perception of feeling cold in the bedroom and sleep quality	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Nagoya Journal of Medical Science	6. 最初と最後の頁 705-714
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18999/nagjms.83.4.705	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Umishio Wataru, Ikaga Toshiharu, Kario Kazuomi, Fujino Yoshihisa, Suzuki Masaru, Ando Shintaro, Hoshi Tanji, Yoshimura Takesumi, Yoshino Hiroshi, Murakami Shuzo, on behalf of the SWH Survey Group	4. 巻 26
2. 論文標題 Electrocardiogram abnormalities in residents in cold homes: a cross-sectional analysis of the nationwide Smart Wellness Housing survey in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Environmental Health and Preventive Medicine	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12199-021-01024-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Umishio Wataru, Ikaga Toshiharu, Kario Kazuomi, Fujino Yoshihisa, Suzuki Masaru, Ando Shintaro, Hoshi Tanji, Yoshimura Takesumi, Yoshino Hiroshi, Murakami Shuzo, on behalf of the SWH survey group	4. 巻 44
2. 論文標題 Impact of indoor temperature instability on diurnal and day-by-day variability of home blood pressure in winter: a nationwide Smart Wellness Housing survey in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Hypertension Research	6. 最初と最後の頁 1406-1416
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41440-021-00699-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Pineda Juan Cesar D., Kokubun Keisuke, Ikaga Toshiharu, Yamakawa Yoshinori	4. 巻 11
2. 論文標題 Housing quality and behavior affect brain health and anxiety in healthy Japanese adults	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-021-91363-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 MIYAZAKI Emiri, ANDO Shintaro, IKAGA Toshiharu	4. 巻 86
2. 論文標題 HIERARCHICAL STRUCTURE ANALYSIS FOR RISK FACTORS OF NEEDING LONG-TERM CARE IN THE LIVING ENVIRONMENT AS MEDIATED BY SOCIAL CAPITAL	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Environmental Engineering (Transactions of AIJ)	6. 最初と最後の頁 399 ~ 408
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3130/aije.86.399	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Suzuki Fumihiko, Morita Emi, Yanagisawa Masashi, Ikaga Toshiharu, Nakamura Hiroyuki	4. 巻 16
2. 論文標題 Protein intake in inhabitants with regular exercise is associated with sleep quality: Results of the Shika study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 1 ~ 16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0247926	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Chimed Ochir Odgerel, Ikaga Toshiharu, Ando Shintaro, Ishimaru Tomohiro, Kubo Tatsuhiko, Murakami Shuzo, Fujino Yoshihisa	4. 巻 31
2. 論文標題 Effect of housing condition on quality of life	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Indoor Air	6. 最初と最後の頁 1029 ~ 1037
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ina.12819	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Umishio Wataru, Ikaga Toshiharu, Kario Kazuomi, Fujino Yoshihisa, Hoshi Tanji, Ando Shintaro, Suzuki Masaru, Yoshimura Takesumi, Yoshino Hiroshi, Murakami Shuzo	4. 巻 38
2. 論文標題 Intervention study of the effect of insulation retrofitting on home blood pressure in winter: a nationwide Smart Wellness Housing survey	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Hypertension	6. 最初と最後の頁 2510 ~ 2518
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/HJH.0000000000002535	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ishimaru Tomohiro, Ando Shintaro, Umishio Wataru, Kubo Tatsuhiko, Murakami Shuzo, Fujino Yoshihisa, Ikaga Toshiharu	4. 巻 145
2. 論文標題 Impact of Cold Indoor Temperatures on Overactive Bladder: A Nationwide Epidemiological Study in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Urology	6. 最初と最後の頁 60 ~ 65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.urology.2020.08.020	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Umishio Wataru, Ikaga Toshiharu, Fujino Yoshihisa, Ando Shintaro, Kubo Tatsuhiko, Nakajima Yukie, Hoshi Tanji, Suzuki Masaru, Kario Kazuomi, Yoshimura Takesumi, Yoshino Hiroshi, Murakami Shuzo	4. 巻 30
2. 論文標題 Disparities of indoor temperature in winter: A cross sectional analysis of the Nationwide Smart Wellness Housing Survey in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Indoor Air	6. 最初と最後の頁 1317 ~ 1328
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ina.12708	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 安部 祐子、白石 靖幸、林 立也、伊香賀 俊治、安藤 真太郎、藤野 善久	4. 巻 45
2. 論文標題 執務者の作業効率改善・健康増進に向けた執務環境主観評価ツールの有効性の検証	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 空気調和・衛生工学会 論文集	6. 最初と最後の頁 27～35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18948/shase.45.278_27	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 YANASE Tomoki, IKAGA Toshiharu, SATOU Noriaki, SHIMIZU Hiroshi, ITO Sei, KAWAKAMI Risa	4. 巻 86
2. 論文標題 STUDY ON DIFFERENT OFFICE COOLING SYSTEMS ON WORKERS BY SUBJECT EXPERIMENT (PART 1): EFFECTS OF INDOOR ENVIRONMENT DIFFERENCE DUE TO OFFICE COOLING SYSTEMS ON SKIN TEMPERATURE, PSYCHOLOGICAL QUANTITY, AND WORKPLACE PRODUCTIVITY	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Environmental Engineering (Transactions of AIJ)	6. 最初と最後の頁 205～214
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3130/aije.86.205	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Miyake Fuyu, Odgerel Chimed-Ochir, Mine Yuko, Kubo Tatsuhiko, Ikaga Toshiharu, Fujino Yoshihisa	4. 巻 -
2. 論文標題 A prospective cohort study of bedroom warming with a heating system and its association with common infectious diseases in children during winter in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Epidemiology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2188/jea.JE20190312	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 安部祐子, 白石靖幸, 林立也, 伊香賀俊治, 安藤真太郎, 藤野善久	4. 巻 278
2. 論文標題 執務者の作業効率改善・健康増進に向けた執務環境主観評価ツールの有効性の検証	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 空気調和・衛生工学論文集	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 ONO Mari, IKAGA Toshiharu, NAKAJIMA Yukie, HOSHI Tanji	4. 巻 85
2. 論文標題 PERCEIVED INDOOR TEMPERATURE AND CHANGE IN NURSING CARE LEVEL IN COMMUNITY-DWELLING ELDERLY	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Environmental Engineering (Transactions of AIJ)	6. 最初と最後の頁 197 ~ 204
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3130/aije.85.197	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 ABE Yuko, SHIRAIISHI Yasuyuki, HAYASHI Tatsuya, IKAGA Toshiharu, ANDO Shintaro	4. 巻 26
2. 論文標題 DEVELOPMENT OF WORK ENVIRONMENT SUBJECTIVE ASSESSMENT TOOL FOR IMPROVEMENT OF WORKERS' WORK EFFICIENCY AND HEALTH PROMOTION	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 AIJ Journal of Technology and Design	6. 最初と最後の頁 191 ~ 196
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3130/aijt.26.191	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渡辺麻衣子, 横瀬英里子, 小沼ルミ, 入倉大祐, 角泰人, 原田奈穂子, 大橋博樹, 小西良子, 工藤由起子, 高鳥浩介, 鎌田洋一, 林健太郎	4. 巻 48(1)
2. 論文標題 東日本大震災被災地における避難施設内真菌叢に関する研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 防菌防黴学雑誌	6. 最初と最後の頁 3 ~ 9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Umishio Wataru, Ikaga Toshiharu, Kario Kazuomi, Fujino Yoshihisa, Hoshi Tanji, Ando Shintaro, Suzuki Masaru, Yoshimura Takesumi, Yoshino Hiroshi, Murakami Shuzo, on behalf of the SWH Survey Group	4. 巻 74
2. 論文標題 Cross-Sectional Analysis of the Relationship Between Home Blood Pressure and Indoor Temperature in Winter	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Hypertension	6. 最初と最後の頁 756 ~ 766
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1161/HYPERTENSIONAHA.119.12914	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木 庸介、西尾 尚子、伊藤 史子	4. 巻 54
2. 論文標題 都市部における心拍変動を用いた歩行時ストレスの評価方法の提案と適用	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 都市計画論文集	6. 最初と最後の頁 811～817
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11361/journalcpj.54.811	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 NAKAJIMA Yukie, IKAGA Toshiharu, ONO Mari, HOSHI Tanji, ANDO Shintaro	4. 巻 84
2. 論文標題 MULTIVARIATE ANALYSIS OF PERCEIVED INDOOR TEMPERATURE AND AGE AT NEED FOR LONG-TERM CARE INSURANCE	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Environmental Engineering (Transactions of AIJ)	6. 最初と最後の頁 795～803
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3130/aije.84.795	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 SAKAMOTO Sho, ANDO Shintaro, HINO Kimihiro	4. 巻 84
2. 論文標題 RELATIONSHIP BETWEEN THIRD PLACES AND NEEDING LONG-TERM CARE OF THE LATE ELDERLY IN THE SUBURB	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Environmental Engineering (Transactions of AIJ)	6. 最初と最後の頁 577～586
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3130/aije.84.577	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 村上周三, 伊香賀俊治	4. 巻 271(10)
2. 論文標題 住環境と"健康日本21(第二次)"	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 医学のあゆみ	6. 最初と最後の頁 1146～1151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木 昌	4. 巻 108(12)
2. 論文標題 環境温度が与える生体への負荷と環境障害	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本内科学会雑誌	6. 最初と最後の頁 2442 ~ 2453
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊香賀俊治	4. 巻 43(7)
2. 論文標題 屋内で発生する熱中症, 特集 熱中症と闘う in 2019 for 2020	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 救急医学	6. 最初と最後の頁 912 ~ 917
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakajima Yukie, Schmidt Steven, Malmgren Fange Agneta, Ono Mari, Ikaga Toshiharu	4. 巻 16
2. 論文標題 Relationship between Perceived Indoor Temperature and Self-Reported Risk for Frailty among Community-Dwelling Older People	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 613 ~ 613
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph16040613	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Tsuboi Satoshi, Mine Tomosa, Tomioka Yumi, Shiraishi Saeka, Fukushima Fujiko, Ikaga Toshiharu	4. 巻 Volume 11
2. 論文標題 Are cold extremities an issue in women's health? Epidemiological evaluation of cold extremities among Japanese women	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal of Women's Health	6. 最初と最後の頁 31 ~ 39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2147/IJWH.S190414	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Suzuki Masaru, Shimbo Takuro, Ikaga Toshiharu, Hori Shingo	4. 巻 58
2. 論文標題 Incidence and Characteristics of Bath-related Accidents	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Internal Medicine	6. 最初と最後の頁 53～62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2169/internalmedicine.0825-18	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 SATO Ryota, IKAGA Toshiharu, MURAKAMI Shuzo, SEIKE Tsuyoshi, OTSUKA Kaichi	4. 巻 83
2. 論文標題 EVALUATION OF RELATIONSHIP BETWEEN RESIDENCE RESILIENCY AND RESIDENTS' AWARENESS OF DISASTER PREVENTION	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Environmental Engineering (Transactions of AIJ)	6. 最初と最後の頁 615～623
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3130/aije.83.615	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kario Kazuomi	4. 巻 71
2. 論文標題 Nocturnal Hypertension	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Hypertension	6. 最初と最後の頁 997～1009
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1161/HYPERTENSIONAHA.118.10971	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kario Kazuomi	4. 巻 20
2. 論文標題 Hemodynamic arteriosclerotic syndrome - A vicious cycle of hemodynamic stress and vascular disease	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Journal of Clinical Hypertension	6. 最初と最後の頁 1073～1077
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jch.13313	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hoshide Satoshi, Yano Yuichiro, Kanegae Hiroshi, Kario Kazuomi	4. 巻 71
2. 論文標題 Effect of Lowering Home Blood Pressure on Subclinical Cardiovascular Disease in Masked Uncontrolled Hypertension	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of the American College of Cardiology	6. 最初と最後の頁 2858 ~ 2859
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jacc.2018.04.017	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林 侑江、伊香賀 俊治、安藤 真太郎、星 旦二	4. 巻 83
2. 論文標題 有料老人ホームの冬季室内温熱環境が入居者の要介護度の重度化に及ぼす影響	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本建築学会環境系論文集	6. 最初と最後の頁 225 ~ 233
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3130/aije.83.225	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 海塩 渉、伊香賀 俊治、大橋 知佳	4. 巻 82
2. 論文標題 高断熱住宅への住み替えによる冬季の睡眠の質への影響	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本建築学会環境系論文集	6. 最初と最後の頁 513 ~ 523
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3130/aije.82.513	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hayashi Yukie, Schmidt Steven, Malmgren Fange Agneta, Hoshi Tanji, Ikaga Toshiharu	4. 巻 14
2. 論文標題 Lower Physical Performance in Colder Seasons and Colder Houses: Evidence from a Field Study on Older People Living in the Community	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 651 ~ 651
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph14060651	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する



1. 著者名 大束 開智、伊香賀 俊治、村上 周三、工月 良太、川除 隆広	4. 巻 82
2. 論文標題 ライフラインの途絶に備えた対策がもたらす地域のレジリエンス向上効果の評価手法の提案	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本建築学会環境系論文集	6. 最初と最後の頁 471 ~ 479
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3130/aije.82.471	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西川 華乃子、伊香賀 俊治、近江 聡子	4. 巻 82
2. 論文標題 児童の身体活動を規定する地域環境要因分析	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本建築学会環境系論文集	6. 最初と最後の頁 317 ~ 325
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3130/aije.82.317	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計263件 (うち招待講演 34件 / うち国際学会 29件)

1. 発表者名 伊香賀俊治
2. 発表標題 在宅における住居環境支援からの 新しい介護・フレイル予防対策
3. 学会等名 在宅療養ネットワーク懇話会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 伊香賀俊治
2. 発表標題 都市環境における住宅の温熱環境と睡眠
3. 学会等名 日本睡眠環境学会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 伊香賀俊治
2. 発表標題 住まいの環境と健康
3. 学会等名 島根県地球温暖化防止活動推進センター（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 伊香賀俊治
2. 発表標題 住宅省エネ化が小児から高齢者の健康にもたらす便益
3. 学会等名 住宅産業研修財団（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 伊香賀俊治
2. 発表標題 住まいと健康
3. 学会等名 大村市医師会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Toshiharu Ikaga
2. 発表標題 Wooden Space Providing Good Health Effects
3. 学会等名 WOODRISE 2021 KYOTO（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊香賀俊治
2. 発表標題 室内環境制御におけるイノベーション ～健康・ウェルネスの視点から
3. 学会等名 室内環境学会（大会）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊香賀俊治
2. 発表標題 これからの住宅課題と 住まいと住まい方ジェロントロジー研究会
3. 学会等名 日本応用老年学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊香賀 俊治 / 岩崎 えりか / 小熊 祐子 / 福島 富士子 / 富岡 由美 / 峰 友紗
2. 発表標題 幼稚園の空間・環境設計と幼児の身体活動量に関する横断・縦断調査
3. 学会等名 日本運動疫学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 馬場 暁子 / 小熊 祐子 / 福島 富士子 / 富岡 由美 / 峰 友紗 / 伊香賀 俊治
2. 発表標題 学校施設環境・運動教育と児童の座位行動・中強度以上身体活動の関連
3. 学会等名 日本運動疫学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金子 真史 / 馬場 暁子 / 小熊 祐子 / 福島 富士子 / 富岡 由美 / 峰 友紗 / 伊香賀 俊治
2. 発表標題 幼児期から児童期における身体活動の持ち越し効果に関する縦断調査
3. 学会等名 日本運動疫学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 明内 勝裕 / 伊藤 真紀 / 小島 弘 / 伊香賀 俊治
2. 発表標題 住宅の暖房方式と居住者の座位行動に関する多変量解析
3. 学会等名 日本運動疫学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤澤 健太郎 / 伊香賀 俊治 / 清田 修 / 國友 理 / 西田 裕道 / 佐伯 爽 / 藤野 善久
2. 発表標題 オフィス・住宅・地域の環境と健康・知的生産性に関する WEB 調査 その1：オフィス環境と経済便益に着目した分析
3. 学会等名 日本建築学会（関東支部）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐伯 爽 / 伊香賀 俊治 / 清田 修 / 國友 理 / 西田 裕道 / 藤野 善久 / 藤澤 健太郎
2. 発表標題 オフィス・住宅・地域の環境と健康・知的生産性に関する WEB 調査 その2：在宅勤務に着目した分析
3. 学会等名 日本建築学会（関東支部）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小林 香菜子 / 伊香賀 俊治 / 権藤 尚 / 坂田 克彦 / 稲葉 岳 / 清水 悠香 / 白倉 里津 / 佐伯 爽
2. 発表標題 室内緑化と調光・調色による色温度・照度の組み合わせの違いが執務者の生理量・心理量・知的生産性に及ぼす影響に関する被験者実験
3. 学会等名 日本建築学会（関東支部）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小笠原 直希 / 伊香賀 俊治 / 志波 徹 / 田辺 新一 / 秋元 孝之 / 上林 清香 / 池田 知之 / 明内 勝裕 / 大橋 桃子 / 河本 紗弥
2. 発表標題 夏季の就寝前・就寝中の温熱曝露環境と睡眠に関する実測調査
3. 学会等名 日本建築学会（関東支部）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 川島 百合子 / 伊香賀 俊治 / 村上 周三 / 藤野 善久 / 安藤 真太郎 / 池田 知之 / 明内 勝裕 / 大橋 桃子 / 上林 清香 / 河本 紗弥
2. 発表標題 住宅内の上下・室間温度差が居住者の健康状態に及ぼす影響
3. 学会等名 日本建築学会（関東支部）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大橋 桃子 / 伊香賀 俊治 / 小島 弘 / 小泉 貴子 / 石川 直明 / 福島 富士子 / 富岡 由美 / 峰 友紗 / 石井 朱音 / 金子 真史
2. 発表標題 冬季の住宅内の温熱環境が母子の健康に及ぼす影響に関する研究 その1 子供の喘息及び病欠に関する多重ロジスティック回帰分析
3. 学会等名 日本建築学会（関東支部）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 石井 朱音 / 伊香賀 俊治 / 小島 弘 / 小泉 貴子 / 石川 直明 / 福島 富士子 / 富岡 由美 / 峰 友紗 / 大橋 桃子 / 金子 真史
2. 発表標題 冬季の住宅内の温熱環境が母子の健康に及ぼす影響に関する研究 その2 母親の月経随伴症状と住環境の関連
3. 学会等名 日本建築学会（関東支部）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 金子 真史 / 伊香賀 俊治 / 小島 弘 / 小泉 貴子 / 石川 直明 / 福島 富士子 / 富岡 由美 / 峰 友紗 / 大橋 桃子 / 石井 朱音
2. 発表標題 冬季の住宅内の温熱環境が母子の健康に及ぼす影響に関する研究 その3 児童の身体活動と住環境の関連
3. 学会等名 日本建築学会（関東支部）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 稲葉 岳 / 伊香賀 俊治 / 坂田 英昭 / 藤野 善久
2. 発表標題 オフィス環境によるテレワーク併用執務者の健康と知的生産性に関する実態調査と 大規模Web調査との比較
3. 学会等名 日本建築学会（大会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 上田 悠 / 伊香賀 俊治 / 三浦 真由美 / 太宰 龍太 / 清水 悠香
2. 発表標題 足元放射暖房機による執務者の生理・心理反応、知的生産性に関する冬季被験者実験 その1：実験概要および皮膚温度・冷えの自覚への影響
3. 学会等名 日本建築学会（大会）
4. 発表年 2021年



1. 発表者名 清水 悠香 / 伊香賀 俊治 / 三浦 真由美 / 上田 悠 / 太宰 龍太
2. 発表標題 足元放射暖房機による執務者の生理・心理反応、知的生産性に関する冬季被験者実験 その2：眠気・集中度と知的生産性への影響
3. 学会等名 日本建築学会（大会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊香賀 俊治 / 光本 ゆり / 村上 周三 / 藤野 善久 / 安藤 真太郎 / 海塩 涉
2. 発表標題 住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査 その28： 傷病・自覚症状割合と室温に関する横断分析と改修前後分析
3. 学会等名 日本建築学会（大会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 福積 慶大 / 安藤 真太郎 / 伊香賀 俊治 / 村上 周三 / 藤野 善久 / 海塩 涉
2. 発表標題 住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査 その29 季節による室温変動が冬季の過活動膀胱に及ぼす影響検証
3. 学会等名 日本建築学会（大会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤井 貴樹 / 安藤 真太郎 / 伊香賀 俊治 / 村上 周三 / 藤野 善久 / 海塩 涉 / 福積 慶大
2. 発表標題 住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査 その30 夏季の就床後室温度が睡眠障害に及ぼす影響の改修前後検証
3. 学会等名 日本建築学会（大会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 明内 勝裕 / 伊香賀 俊治 / 村上 周三 / 小熊 祐子 / 藤野 善久 / 安藤 真太郎 / 伊藤 真紀
2. 発表標題 住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査 その31：住宅・地域環境と外出行動の関連に関する横断分析
3. 学会等名 日本建築学会（大会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 光本 ゆり / 伊香賀 俊治 / 村上 周三 / 藤野 善久 / 小島 弘 / 伊藤 真紀
2. 発表標題 住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査 その32： 省エネ適合住宅調査との統合分析に基づく大人の傷病割合と室温の関連
3. 学会等名 日本建築学会（大会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大橋 桃子 / 伊香賀 俊治 / 村上 周三 / 藤野 善久 / 光本 ゆり / 小島 弘 / 伊藤 真紀
2. 発表標題 住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査 その33： 省エネ基準適合住宅調査との統合分析に基づく子供の有病割合と室内湿度の関連
3. 学会等名 日本建築学会（大会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 池田 知之 / 伊香賀 俊治 / 村上 周三 / 藤野 善久 / 海塩 涉 / 小島 弘 / 伊藤 真紀
2. 発表標題 住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査 その34： 省エネ基準適合住宅調査との統合分析に基づく家庭血圧と室温の関連
3. 学会等名 日本建築学会（大会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金子 真史 / 伊香賀 俊治 / 小熊 祐子 / 福島 富士子 / 富岡 由美 / 峰 友紗 / 馬場 暁子
2. 発表標題 幼稚園での遊びと小学校施設が身体活動量を介して児童の体力に与える影響に関する縦断調査
3. 学会等名 日本建築学会（大会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 馬場 暁子 / 伊香賀 俊治 / 小熊 祐子 / 福島 富士子 / 富岡 由美 / 峰 友紗
2. 発表標題 小学校の施設環境・運動教育と児童の座位行動時間に関するマルチレベル分析
3. 学会等名 日本建築学会（大会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 河本 紗弥 / 伊香賀 俊治 / 満倉 靖恵 / 古溝 洋明 / 吉田 吏志 / 池田 知之 / 明内 勝裕
2. 発表標題 住宅断熱性能が生理心理・知的生産性に及ぼす影響に関する被験者実験 その1：室内温熱環境と在宅作業成績への影響
3. 学会等名 日本建築学会（大会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 満倉 靖恵 / 岡 恭子 / 伊香賀 俊治 / 河本 紗弥 / 古溝 洋明 / 吉田 吏志
2. 発表標題 住宅断熱性能が生理心理・知的生産性に及ぼす影響に関する被験者実験 その2：脳波計測に基づく集中とストレスへの影響
3. 学会等名 日本建築学会（大会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊香賀俊治
2. 発表標題 健康長寿を実現するスマートウェルネス住宅
3. 学会等名 日本公衆衛生学会（第79回学術総会）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊香賀俊治
2. 発表標題 医療建築連携の必要性と仕組み モデル実証事例の紹介
3. 学会等名 大阪府建築士会（おおさか建築祭）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊香賀俊治
2. 発表標題 住宅とコロナ 健康住宅の視点から
3. 学会等名 長崎県（まちづくり総合住宅フェア）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 馬場 暁子 / 伊香賀 俊治 / 小熊 祐子 / 福島 富士子 / 富岡 由美 / 峰 友紗 / 岩崎 えりか
2. 発表標題 普通教室への冷房導入による児童の学習意欲・疲労感の変化に関する縦断調査
3. 学会等名 日本建築学会（関東支部）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐伯 爽 / 伊香賀 俊治 / 清田 修 / 西田 裕道 / 藤野 善久 / 伊藤 勇貴 / 稲葉 岳
2. 発表標題 オフィス・住宅・地域の環境による在宅勤務併用者の健康と知的生産性に関する断面調査
3. 学会等名 日本建築学会（関東支部）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大橋 桃子 / 伊香賀 俊治 / 小島 弘 / 伊藤 真紀 / 麻生 菜摘 / 光本 ゆり / 池田 知之 / 明内 勝裕
2. 発表標題 住宅の暖房方式が子供の疾病に及ぼす影響に関する多重ロジスティック回帰分析
3. 学会等名 日本建築学会（関東支部）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 明内 勝裕 / 伊香賀 俊治 / 小島 弘 / 伊藤 真紀
2. 発表標題 住宅の暖房方式が在宅時座位行動に及ぼす影響に関する多変量解析
3. 学会等名 日本建築学会（関東支部）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 柳瀬 友輝 / 伊香賀 俊治 / 佐藤 啓明 / 清水 洋 / 伊藤 清 / 川上 梨沙
2. 発表標題 オフィスの冷房方式の違いが執務者に及ぼす影響に関する被験者実験（その1）：冷房方式による室内環境の違いが皮膚表面温度・心理量・知的生産性に及ぼす影響
3. 学会等名 日本建築学会（関東支部）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 渡邊 秀斗 / 満倉 靖恵 / 伊香賀 俊治 / 山川 義徳 / 内田 泰史 / 安藤 真太郎 / 福永 興彦
2. 発表標題 住環境が脳機能に及ぼす影響に関する実測調査 その11: 住宅内温熱環境が脳機能・呼吸機能に与える影響に関する縦断調査
3. 学会等名 日本建築学会(大会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 海塩 渉 / 伊香賀 俊治 / 村上 周三 / 苅尾 七臣 / 藤野 善久 / 安藤 真太郎 / 鈴木 昌
2. 発表標題 住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査 その21: 断熱改修の介入による冬季の家庭血圧の低減効果
3. 学会等名 日本建築学会(大会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 光本 ゆり / 伊香賀 俊治 / 村上 周三 / 藤野 善久 / 鈴木 昌 / 安藤 真太郎 / 川久保 俊
2. 発表標題 住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査 その22: 断熱改修に伴う室温と症状の変化の多重ロジスティック回帰分析
3. 学会等名 日本建築学会(大会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊藤 真紀 / 伊香賀 俊治 / 村上 周三 / 小熊 祐子 / 藤野 善久 / 鈴木 昌 / 安藤 真太郎
2. 発表標題 住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査 その23: 断熱改修前後の暖房使用の変化が身体活動に与える影響(続報)
3. 学会等名 日本建築学会(大会)
4. 発表年 2020年



1. 発表者名 明内 勝裕 / 伊香賀 俊治 / 村上 周三 / 小熊 祐子 / 伊藤 真紀 / 藤野 善久 / 鈴木 昌 / 安藤 真太郎 / 光本 ゆり / 麻生 菜摘
2. 発表標題 住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査 その24: 断熱改修前後の住宅・地域環境が外出頻度に及ぼす影響の検討
3. 学会等名 日本建築学会(大会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 瑞慶覧 長侃 / 安藤 真太郎 / 伊香賀 俊治 / 村上 周三 / 藤野 善久 / 鈴木 昌
2. 発表標題 住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査 その25: 就寝前の室温変化が睡眠障害に及ぼす影響検証
3. 学会等名 日本建築学会(大会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 福積 慶大 / 安藤 真太郎 / 伊香賀 俊治 / 村上 周三 / 藤野 善久 / 鈴木 昌
2. 発表標題 住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査 その26: 就寝前の室温変化が過活動膀胱に及ぼす影響検証
3. 学会等名 日本建築学会(大会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鎌田 智光 / 川久保 俊 / 伊香賀 俊治 / 村上 周三 / 藤野 善久 / 鈴木 昌 / 安藤 真太郎 / 野澤 将太
2. 発表標題 住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査 その27: 断熱改修前後の温度とSET*が居住者の健康状態に及ぼす影響の比較
3. 学会等名 日本建築学会(大会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鎌田 智光 / 川久保 俊 / 伊香賀 俊治 / 村上 周三 / 藤野 善久 / 鈴木 昌 / 安藤 真太郎 / 野澤 将太
2. 発表標題 住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査 その27： 断熱改修前後の温度とSET*が居住者の健康状態に及ぼす影響の比較
3. 学会等名 日本建築学会（大会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 清水 悠香 / 伊香賀 俊治 / 三浦 真由美 / 上田 悠 / 伊藤 勇貴 / 柳瀬 友輝
2. 発表標題 温冷感申告型空調の申告操作の有無が執務者の温熱満足度と知的生産性に及ぼす影響
3. 学会等名 日本建築学会（大会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宮崎 笑里 / 安藤 真太郎 / 伊香賀 俊治
2. 発表標題 地方在住高齢者の外出頻度に影響を与える公園要素の検討
3. 学会等名 日本建築学会（大会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 池田 知之 / 伊香賀 俊治 / 小島 弘 / 伊藤 真紀 / 浅倉 弘堯 / 麻生 菜摘 / 光本 ゆり
2. 発表標題 暖房方式と使い方が居住者の健康に与える影響に関するフィールド調査 その1： 室温と家庭血圧に関するマルチレベル分析
3. 学会等名 日本建築学会（大会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 浅倉 弘堯 / 伊香賀 俊治 / 小島 弘 / 伊藤 真紀 / 光本 ゆり / 池田 知之
2. 発表標題 暖房方式と使い方が居住者の健康に与える影響に関するフィールド調査 その2: 室温と睡眠の質に関する横断分析
3. 学会等名 日本建築学会(大会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山岡 達弘 / 安藤 真太郎 / 伊香賀 俊治 / 仁部 佳央里
2. 発表標題 冬季の住環境が在宅時座位行動時間へ与える影響に関するマルチレベル検証 西日本の2地域を対象とした階層線形モデル
3. 学会等名 日本建築学会(大会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 安藤 真太郎 / 仁部 佳央里 / 福積 慶大 / 伊香賀 俊治
2. 発表標題 季節感変動を考慮した室内温熱環境と夜間頻尿症状のマルチレベル分析 その2: 夜間頻尿ハイリスク保有者への影響検証
3. 学会等名 日本建築学会(大会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小野 万里 / 伊香賀 俊治 / 中島 侑江
2. 発表標題 冬季の住宅内温熱環境が要介護認定者の体温に及ぼす影響
3. 学会等名 日本建築学会(大会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岩崎 えりか / 伊香賀 俊治 / 小熊 祐子 / 福島 富士子 / 富岡 由美 / 峰 友沙
2. 発表標題 冬季における幼稚園の空間・環境が幼児の身体活動に及ぼす影響
3. 学会等名 日本建築学会（大会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 馬場 暁子 / 伊香賀 俊治 / 小熊 祐子 / 福島 富士子 / 富岡 由美 / 峰 友紗 / 岩崎 えりか
2. 発表標題 小学校の室内環境と身体活動量が児童の学習効率に及ぼす影響に関するマルチレベル分析
3. 学会等名 日本建築学会（大会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中島 侑江 / 伊香賀 俊治
2. 発表標題 非公開統計情報に基づくFuel Povertyと住宅・世帯属性の関連
3. 学会等名 日本建築学会（大会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 野澤 将太 / 川久保 俊 / 村上 周三 / 伊香賀 俊治 / 出口 清孝 / 鎌田 智光
2. 発表標題 住環境改善が社会全体にもたらす経済的便益の推計
3. 学会等名 日本建築学会（大会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊香賀俊治
2. 発表標題 温熱環境改善についての必要性について
3. 学会等名 (一社)東京建築士会・(一財)ベターリビング(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊香賀俊治, 安藤真太郎, 川久保俊
2. 発表標題 住環境と健康に関するベースライン調査と改修前後調査の分析速報
3. 学会等名 (一社)日本サステナブル建築協会(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊香賀俊治
2. 発表標題 沖縄における省エネ建築の可能性、～健康性と知的生産性を高めるウェルネスZEB/ZEHのすすめ～
3. 学会等名 内閣府沖縄総合事務局(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊香賀俊治
2. 発表標題 ゼロエネルギー住宅が生み出す健康の付加価値
3. 学会等名 宮城県環境生活部(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊香賀俊治
2. 発表標題 温熱環境と健康危機管理
3. 学会等名 第47回建築物環境衛生管理全国大会シンポジウム（東京，日本教育会館）（公財）日本建築衛生管理教育センター（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊香賀俊治
2. 発表標題 暖かな住まいが幼児から高齢者の健康を守る、～住環境が脳・循環器・呼吸器・運動器に及ぼす影響調査結果から～
3. 学会等名 青森県県土整備部（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Toshiahru Ikaga
2. 発表標題 Field survey on Impact of living environments on brain, cardiovascular, respiratory and locomotive system
3. 学会等名 International forum on healthy and low-energy housing in a decarbonized society(Jiaxing, China)（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊香賀俊治
2. 発表標題 スマートウェルネス住宅が生み出す住宅の高付加価値
3. 学会等名 第4回住宅・ビル・施設Week講演会（東京ビックサイト）（招待講演）
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 伊香賀俊治
2. 発表標題 住まいと住まい方が幼児から高齢者の健康に及ぼす影響
3. 学会等名 Japan Home & Building Show 2019 (東京ビックサイト) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊香賀俊治
2. 発表標題 暖かな木の家が健康性・生産性を高める, ~住環境が脳・循環器・呼吸器・運動器に及ぼす影響に関する調査から~
3. 学会等名 第10回日本の木の家づくりサミット in 博多 (アクロス福岡) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊香賀俊治
2. 発表標題 暖かな木の住まいが幼児から高齢者にもたらす健康効果、~住環境が脳・循環器・呼吸器・運動器に及ぼす影響調査から~
3. 学会等名 住まいの健康・省エネ・耐震を考える IN とくしま (徳島, ふれあい健康館) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊香賀俊治
2. 発表標題 小中学校の空間・環境計画が児童生徒の健康と学習効率に与える影響
3. 学会等名 (一社)日本建築学会近畿支部シンポジウム「建築空間における快適性と知的生産性」(ヴィアーレ大阪) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊香賀俊治
2. 発表標題 ウェルネスオフィスがもたらす健康性と知的生産性の便益評価
3. 学会等名 2019年度建築電力研究会講演会（金沢商工会議所）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊香賀俊治
2. 発表標題 スマートウェルネス住宅に関する得られつつある医学的エビデンス
3. 学会等名 グリーン建築推進フォーラム第9回シンポジウム「SDGsスマートウェルネス住宅」（東京、主婦会館プラザエフ）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊香賀俊治
2. 発表標題 住環境と健康について、～住環境が脳・循環器・呼吸器・運動器に及ぼす影響に関する調査から～
3. 学会等名 第17回日本予防医学会学術総会（山口大学）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊香賀俊治
2. 発表標題 高齢者に優しい家づくり・リフォーム
3. 学会等名 第30回日本医学会総会（名古屋、ウィンクあいち）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊香賀俊治
2. 発表標題 暖かな木の住まいで健康に
3. 学会等名 東北大学・河北新報社・東北放送、第11回元気・健康フェアinとうほく（仙台国際センター）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 光本ゆり，伊香賀俊治，伊藤真紀，池田知之，浅倉弘堯，馬淵勝之，小野万里
2. 発表標題 冬季の暖房利用が自覚症状に及ぼす影響に関する介入研究
3. 学会等名 日本建築学会関東支部研究発表会（東京）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岩崎えりか，伊香賀俊治，小熊祐子，福島富士子，富岡由美，峰友紗，加藤秀弥，馬淵勝之
2. 発表標題 幼稚園の園舎建て替えによる空間・環境の変化が幼児の身体活動に及ぼす影響
3. 学会等名 日本建築学会関東支部研究発表会（東京）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岩崎えりか，伊香賀俊治，加藤秀弥，馬淵勝之
2. 発表標題 学校施設計画と運動促進が児童の身体活動に及ぼす影響に関するマルチレベル分析
3. 学会等名 日本建築学会関東支部研究発表会（東京）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 清水悠香, 伊香賀俊治, 三浦眞由美, 上田悠, 四方路慶樹, 伊藤勇貴, 柳瀬友輝
2. 発表標題 温冷感申告型空調が執務者の温熱満足度と知的生産性に及ぼす影響
3. 学会等名 日本建築学会関東支部研究発表会(東京)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊藤勇貴, 伊香賀俊治, 藤野善久, 四方路慶樹
2. 発表標題 夏季の執務環境が心身の健康と知的生産性に及ぼす影響に関する多変量解析
3. 学会等名 日本建築学会関東支部研究発表会(東京)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 池田知之, 伊香賀俊治, 伊藤真紀, 浅倉弘亮, 小野万里, 馬淵勝之, 麻生菜摘, 光本ゆり
2. 発表標題 冬季の暖房利用が室温・家庭血圧に及ぼす影響に関する介入研究
3. 学会等名 日本建築学会関東支部研究発表会(東京)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 瑞慶覧長侃, 安藤真太郎, 伊香賀俊治, 仁部佳央里
2. 発表標題 動脈硬化に着目した室温による血圧変動のマルチレベルモデル
3. 学会等名 日本建築学会九州支部研究発表会(熊本)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 仁部佳央里, 安藤真太郎, 伊香賀俊治, 海塩渉
2. 発表標題 室内温熱環境が夜間頻尿症状に及ぼす影響検証, OAB 症状の有無に着目したマルチレベル分析
3. 学会等名 日本建築学会九州支部研究発表会(熊本)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 浅倉弘堯, 伊香賀俊治, 田辺新一, 秋元孝之, 志波徹, 藤本祐子
2. 発表標題 集合住宅における快適・健康性と省エネ性の両立を目指したウェルネスZEHの研究, (第3報)睡眠の質向上をもたらす冷暖房利用に関する介入調査
3. 学会等名 空気調和・衛生工学会大会学術講演会(札幌)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 四方路慶樹, 伊香賀俊治, 藤野善久, 伊藤勇貴
2. 発表標題 執務環境が心身の健康と知的生産性に及ぼす影響に関する実態調査, (第1報)市庁舎の調査概要と多変量解析
3. 学会等名 空気調和・衛生工学会大会学術講演会(札幌)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤勇貴, 伊香賀俊治, 四方路慶樹
2. 発表標題 執務環境と住環境が心身の健康と知的生産性に及ぼす影響に関する実態調査, (第2報)身体活動量実測値の多変量解析
3. 学会等名 空気調和・衛生工学会大会学術講演会(札幌)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 安部祐子, 白石靖幸, 安藤真太郎, 伊香賀俊治, 林立也, 藤野善久
2. 発表標題 スマートウェルネスオフィスに関する評価ツールの開発, (第2報) CASBEE-オフィス健康チェックリストの開発及びWEBアンケートの調査結果
3. 学会等名 空気調和・衛生工学会大会学術講演会(札幌)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岩崎えりか, 伊香賀俊治, 村田義郎, 清水賢, 張本和芳, 八嶋一志, 加藤秀弥, 馬淵勝之
2. 発表標題 幼稚園の空間・環境設計が幼児の身体活動に及ぼす影響に関する建て替え前後冬季調査
3. 学会等名 空気調和・衛生工学会大会学術講演会(札幌)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤秀弥, 伊香賀俊治, 村田義郎, 張本和芳, 清水賢, 八嶋一志
2. 発表標題 中学校校舎の建て替えが施設環境と生徒の身体活動に及ぼす影響の検討
3. 学会等名 空気調和・衛生工学会大会学術講演会(札幌)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小野万里, 伊香賀俊治
2. 発表標題 介護施設の温熱環境と要介護高齢者及び介護職員健康状態の関連
3. 学会等名 空気調和・衛生工学会大会学術講演会(札幌)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 光本ゆり, 伊香賀俊治, 小島弘, 伊藤真紀, 馬淵勝之, 浅倉弘堯, 小野万里
2. 発表標題 暖房方式・暖房利用が居住者の健康へ与える影響に関する測定調査, (第1報)居住者の疾病・自覚症状への影響
3. 学会等名 空気調和・衛生工学会大会学術講演会(札幌)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 馬淵勝之, 伊香賀俊治, 伊藤真紀, 浅倉弘堯, 光本ゆり, 小島弘
2. 発表標題 暖房方式・暖房利用が居住者の健康へ与える影響に関する測定調査, (第2報)居住者の身体活動量への影響
3. 学会等名 空気調和・衛生工学会大会学術講演会(札幌)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山岡達弘, 安藤真太郎, 伊香賀俊治
2. 発表標題 室温が在宅時座位時間へ与える影響に関するマルチレベル分析, 西日本中山間地域における冬季のフィールド調査
3. 学会等名 空気調和・衛生工学会大会学術講演会(札幌)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上田悠, 伊香賀俊治, 三浦真由美, 太宰龍太
2. 発表標題 夏季・冬季における床近傍の低温環境が知的生産性に及ぼす影響
3. 学会等名 空気調和・衛生工学会大会学術講演会(札幌)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮崎笑里, 仁部佳央里, 安藤真太郎, 伊香賀俊治, 藤野善久, 久保達彦
2. 発表標題 秋期・冬期における実測調査の基礎集計, 戸建住宅の室内温熱環境が夜間頻尿症状に及ぼす影響検証(その1)
3. 学会等名 空気調和・衛生工学会大会学術講演会(札幌)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 仁部佳央里, 宮崎笑里, 安藤真太郎, 伊香賀俊治, 藤野善久, 久保達彦
2. 発表標題 季節間変動を考慮したマルチレベル分析, 戸建住宅の室内温熱環境が夜間頻尿症状に及ぼす影響検証(その2)
3. 学会等名 空気調和・衛生工学会大会学術講演会(札幌)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 久松慎弥, 山岡達弘, 安藤真太郎, 伊香賀俊治
2. 発表標題 西日本地域における住宅内室温が居住者の下肢筋力に及ぼす影響の検証
3. 学会等名 空気調和・衛生工学会大会学術講演会(札幌)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山岡達弘, 安藤真太郎, 伊香賀俊治
2. 発表標題 西日本地域における住宅内室温が居住者の座位時間に及ぼす影響の検証
3. 学会等名 日本運動疫学会学術総会(横浜)
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 伊藤真紀, 伊香賀俊治, 小熊祐子
2. 発表標題 冬季の住宅内室温・暖房習慣と座位行動の関連, ~ 地方郊外住宅地における横断調査 ~
3. 学会等名 日本運動疫学会学術総会 (横浜)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小野万里, 伊香賀俊治
2. 発表標題 住宅内温熱環境の主観評価と虚弱指標の関連
3. 学会等名 日本運動疫学会学術総会 (横浜)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岩崎えりか, 伊香賀俊治
2. 発表標題 幼稚園の環境要素が幼児の身体活動に及ぼす影響度の検討
3. 学会等名 日本運動疫学会学術総会 (横浜)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊香賀俊治, 伊藤真紀, 小熊祐子, 藤野善久, 安藤真太郎, 村上周三
2. 発表標題 住宅の断熱改修前後の暖房習慣の変化が身体活動に与える影響
3. 学会等名 日本運動疫学会学術総会 (横浜)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 八嶋一志, 伊香賀俊治, 加藤秀弥, 村田義郎, 張本和芳, 清水賢
2. 発表標題 中学校校舎の建て替えが教室環境及び生徒の身体活動・満足度に及ぼす影響, 第1報 実態調査の概要及び環境実測結果
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演会(北陸)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤秀弥, 伊香賀俊治, 村田義郎, 張本和芳, 清水賢, 八嶋一志
2. 発表標題 中学校校舎の建て替えが教室環境及び生徒の身体活動・満足度に及ぼす影響, 第2報 生徒の教室環境評価と学習効率に関する検討
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演会(北陸)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊香賀俊治, 村上周三, 藤野善久, 久保達彦, 鈴木昌, 安藤真太郎, 川久保俊
2. 発表標題 断熱住宅普及率と循環器・呼吸器系疾患の患者数・死者数の地域相関分析, 住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査(その13)
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演会(北陸)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 海塩渉, 伊香賀俊治, 村上周三, 藤野善久, 苅尾七臣, 安藤真太郎, 久保達彦, 鈴木昌
2. 発表標題 冬季の起床時室温への影響要因に関するマルチレベル分析, 住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査(その14)
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演会(北陸)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 光本ゆり, 伊香賀俊治, 村上周三, 藤野善久, 鈴木昌, 川久保俊, 安藤真太郎, 浅倉弘堯, 小野万里
2. 発表標題 床近傍室温と疾病・自覚症状の多重ロジスティック回帰分析, 住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査(その15)
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演会(北陸)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤真紀, 伊香賀俊治, 村上周三, 小熊祐子, 藤野善久, 鈴木昌, 安藤真太郎
2. 発表標題 断熱改修前後の暖房習慣の変化が身体活動に与える影響, 住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査(その16)
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演会(北陸)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 麻生菜摘, 安藤真太郎, 伊香賀俊治, 村上周三, 藤野善久, 久保達彦, 鈴木昌
2. 発表標題 就寝前後の室温が過活動膀胱に与える影響の検証, 住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査(その17)
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演会(北陸)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 古川湧士, 安藤真太郎, 伊香賀俊治, 村上周三, 藤野善久, 久保達彦, 鈴木昌
2. 発表標題 就床前後の室温が睡眠に与える影響の検証, 住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査(その18)
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演会(北陸)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 轉雅彦, 川久保俊, 伊香賀俊治, 村上周三, 安藤真太郎, 大門俊介, 奈良玲伊
2. 発表標題 ロジスティック回帰分析による住民の寒冷感と各種要因の関係性の把握, 住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査(その19)
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演会(北陸)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鎌田智光, 川久保俊, 伊香賀俊治, 村上周三, 安藤真太郎, 大門俊介, 奈良玲伊
2. 発表標題 断熱改修前後の温熱快適性指標値の変化に関する分析, 住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査(その20)
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演会(北陸)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松本実紗, 伊香賀俊治, 山川義徳, 内田泰史, 村上周三, 安藤真太郎, 満倉靖恵
2. 発表標題 冬季の室内温熱環境が脳健康指標に及ぼす影響に関する横断調査及び縦断調査, 住環境が脳機能に及ぼす影響に関する実測調査(その8)
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演会(北陸)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 満倉靖恵, 渡邊秀斗, 伊香賀俊治, 山川義徳, 内田泰史, 安藤真太郎, 福永興壱
2. 発表標題 住宅内温熱環境が脳機能・呼吸機能に与える影響および相互解析, 住環境が脳機能に及ぼす影響に関する実測調査(その9)
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演会(北陸)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡邊秀斗, 満倉靖恵, 伊香賀俊治, 山川義徳, 安藤真太郎
2. 発表標題 簡易脳波計測を用いた住宅の寒暖とストレスの関係調査, 住環境が脳機能に及ぼす影響に関する実測調査(その10)
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演会(北陸)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ジャウエン ピエール, 伊香賀俊治, 伊藤勇貴, 四方路慶樹, 加藤秀弥
2. 発表標題 住宅の内装木質化が睡眠と知的生産性に及ぼす影響に関する日仏被験者実験
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演会(北陸)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浅倉弘晃, 伊香賀俊治, 海塩渉
2. 発表標題 冬季の寝室室温が入眠潜時に及ぼす影響に関するマルチレベルロジスティック回帰分析
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演会(北陸)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小野万里, 伊香賀俊治, 星旦二
2. 発表標題 冬季の室内温熱環境が家庭血圧及び介護施設で測定した血圧値に及ぼす影響の個人内比較
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演会(北陸)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岩崎えりか, 伊香賀俊治, 福島富士子, 浅倉弘堯, 小野万里, 加藤秀弥, 馬淵勝之
2. 発表標題 幼稚園の空間・環境設計が幼児の身体活動に及ぼす影響に関するマルチレベル分析
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演会(北陸)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 安部祐子, 白石靖幸, 安藤真太郎, 伊香賀俊治, 林立也, 藤野善久, 久保達彦
2. 発表標題 スマートウェルネスオフィスの評価に関する研究, 第4報 CASBEE-オフィス健康チェックリスト用いたWEB アンケートの調査結果
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演会(北陸)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 津田公平, 伊香賀俊治, 四方路慶樹, 伊藤勇貴, Pierre Jaouen, 加藤秀弥
2. 発表標題 執務環境が心身の健康と知的生産性に及ぼす影響, 第1報 調査概要
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演会(北陸)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 四方路慶樹, 伊香賀俊治, 藤野善久, 津田公平, 伊藤勇貴, Pierre Jaouen
2. 発表標題 執務環境が心身の健康と知的生産性に及ぼす影響, 第2報 環境実測・アンケート調査に基づく建て替え前後比較
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演会(北陸)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤勇貴, 伊香賀俊治, 津田公平, 四方路慶樹, Pierre Jaouen, 加藤秀弥
2. 発表標題 執務環境が心身の健康と知的生産性に及ぼす影響, 第3報 木質と非木質内装の鉄道乗務員宿泊室における睡眠実測
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演会(北陸)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 仁部佳央里, 安藤真太郎, 伊香賀俊治, 藤野善久, 久保達彦, 藤田浩平
2. 発表標題 季節間変動を考慮した室内温熱環境と夜間頻尿症状とのマルチレベル分析
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演会(北陸)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮崎笑里, 安藤真太郎, 伊香賀俊治, 坂本將
2. 発表標題 ソーシャル・キャピタルを介した影響の構造モデル, 多変量解析に基づく要介護リスクを規定する住環境要因の特定(その1)
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演会(北陸)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂本將, 安藤真太郎, 伊香賀俊治, 宮崎笑里
2. 発表標題 高齢者における自宅周辺の地域施設と要介護リスクの関連分析, 多変量解析に基づく要介護リスクを規定する住環境要因の特定(その2)
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演会(北陸)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小野万里、伊香賀俊治、中島侑江、白石冴香、松本 実紗
2. 発表標題 住宅内温熱環境の主観評価と要介護度の変化に関する多重ロジスティック回帰分析
3. 学会等名 2018年度日本建築学会関東支部研究発表会（東京）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岩崎えりか、伊香賀俊治、村田義郎、清水賢、張本和芳、白石冴香、松本実紗、浅倉弘堯、小野万里、馬淵勝之
2. 発表標題 幼稚園の空間・環境設計が幼児の身体活動量に及ぼす影響に関する建て替え前後実測
3. 学会等名 2018年度日本建築学会関東支部研究発表会（東京）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奈良玲伊、川久保俊、伊香賀俊治、村上周三、星旦二、安藤真太郎、那須詩織、大門俊介
2. 発表標題 住環境と日々の生活習慣が健康状態に与える影響に関する共分散構造分析
3. 学会等名 2018年度日本建築学会関東支部研究発表会（東京）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 野澤将太、川久保俊、村上周三、伊香賀俊治、出口清孝、 那須詩織、大門俊介
2. 発表標題 住環境の改善に伴う居住者の健康影響及び経済的便益の推計
3. 学会等名 2018年度日本建築学会関東支部研究発表会（東京）
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 光本ゆり、伊香賀俊治、村上周三、藤野善久、久保達彦、安藤真太郎、川久保俊、中島侑江、浅倉弘堯、小野万里、馬淵勝之
2. 発表標題 住宅の断熱改修による温熱環境の変化が居住者の健康状態に及ぼす影響
3. 学会等名 2018年度日本建築学会関東支部研究発表会（東京）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 柳嘉範、伊香賀俊治、村上周三、藤野善久、久保達彦、安藤真太郎、川久保俊、石戸拓朗、佐藤亮太
2. 発表標題 冬季の住宅の推計室温と循環器疾患患者数の関係の地域相関分析
3. 学会等名 2018年度日本建築学会関東支部研究発表会（東京）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大門俊介、川久保俊、村上周三、伊香賀俊治、安藤真太郎、那須詩織
2. 発表標題 住宅内の温湿度と居住者の健康状態に関する研究（その1）断熱改修前後における温湿度変化の把握
3. 学会等名 2018年度日本建築学会関東支部研究発表会（東京）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鎌田智光、川久保俊、村上周三、伊香賀俊治、安藤真太郎、那須詩織、大門俊介
2. 発表標題 住宅内の温湿度と居住者の健康状態に関する研究（その2）冬季の住宅内の温湿度と居住者のアレルギー症状の関係性
3. 学会等名 2018年度日本建築学会関東支部研究発表会（東京）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浅倉弘亮、伊香賀俊治、中島侑江、森田えみ、堀大介、笹原信一郎、松崎一葉、柳沢正史、宮城栄重、辻口博聖、原 章規、 中村裕之
2. 発表標題 冬季の寝室室温が睡眠効率に及ぼす影響に関するマルチレベル分析
3. 学会等名 2018年度日本建築学会関東支部研究発表会（東京）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 柳瀬友輝、伊香賀俊治、岡崎愛、関紅美花、加藤秀弥、四方路慶樹
2. 発表標題 夏季におけるオフィスの空調方式の違いが執務者の知的生産性に及ぼす影響に関する被験者実験
3. 学会等名 2018年度日本建築学会関東支部研究発表会（東京）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤秀弥、伊香賀俊治、村田義郎、清水 賢、市原真希、張本和芳、岡崎 愛、関紅美花
2. 発表標題 冬季の教室環境が生徒の学習効率に及ぼす影響に関するマルチレベルロジスティック回帰分析
3. 学会等名 2018年度日本建築学会関東支部研究発表会（東京）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊香賀俊治、村上周三、 効尾七臣、 吉野博、吉村健清、星旦二、藤野善久、 鈴木昌、川久保俊、安藤真太郎
2. 発表標題 有病確率の多重ロジスティック回帰分析と断熱改修による自覚症状変化 住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査（その7）
3. 学会等名 2018年度日本建築学会大会（東北）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 海塩渉、伊香賀俊治、村上周三、苅尾七臣、藤野善久、星旦二、鈴木昌、安藤真太郎
2. 発表標題 起床時収縮期血圧と室温のマルチレベル分析 住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査（その 8）
3. 学会等名 2018年度日本建築学会大会（東北）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤真紀、伊香賀俊治、 小熊祐子、 村上周三、藤野善久、鈴木昌、安藤真太郎
2. 発表標題 身体活動量、手足の冷えと室温の関連分析 住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査（その 9）
3. 学会等名 2018年度日本建築学会大会（東北）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 平田晃貴、安藤真太郎、 伊香賀俊治、村上周三、藤野善久、 久保達彦、 鈴木昌、川久保俊
2. 発表標題 夜間頻尿と室温の関連分析 住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査（その 10）
3. 学会等名 2018年度日本建築学会大会（東北）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安部祐子、白石靖幸、 安藤真太郎、 伊香賀俊治、林立也、藤野善久
2. 発表標題 WEB アンケートに基づいた執務者の健康、作業効率と執務環境の回帰分析
3. 学会等名 2018年度日本建築学会大会（東北）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 関紅美花、伊香賀俊治、田中宏治、高井啓明、菊池卓郎、田中規敏、西田恵
2. 発表標題 オフィス内の身体活動が自律神経状態と知的生産性に及ぼす影響に関する被験者実験
3. 学会等名 2018年度日本建築学会大会（東北）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鈴木雄介、伊香賀俊治、藤野善久、四方路慶樹、平岡雅哉、佐藤正章、権藤尚、海塩渉、関紅美花
2. 発表標題 実態調査に基づくオフィス環境が心身の健康と知的生産性に及ぼす影響の検証（第1報）実態調査の概要
3. 学会等名 2018年度日本建築学会大会（東北）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 四方路慶樹、伊香賀俊治、藤野善久、平岡雅哉、佐藤正章、鈴木雄介、権藤尚、海塩渉、関紅美花
2. 発表標題 実態調査に基づくオフィス環境が心身の健康と知的生産性に及ぼす影響の検証（第2報）オフィス環境が心身の健康と知的生産性に及ぼす影響
3. 学会等名 2018年度日本建築学会大会（東北）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 権藤尚、鈴木雄介、海塩渉、平岡雅哉、佐藤正章、伊香賀俊治、四方路慶樹、関紅美花
2. 発表標題 実態調査に基づくオフィス環境が心身の健康と知的生産性に及ぼす影響の検証（第3報）アンケート調査と生理量実測結果の関連
3. 学会等名 2018年度日本建築学会大会（東北）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 古川湧士、安藤真太郎、伊香賀俊治、村上周三、藤野善久、久保達彦、鈴木昌、川久保俊
2. 発表標題 睡眠と室温の関連分析住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査（その 11）
3. 学会等名 2018年度日本建築学会大会（東北）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 那須詩織、川久保俊、伊香賀俊治、村上周三、藤野善久、清家剛、安藤真太郎、大門俊介
2. 発表標題 断熱改修範囲及び CASBEE 健康チェックリストのスコアと室温の関連分析住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査（その 12）
3. 学会等名 2018年度日本建築学会大会（東北）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 浅倉弘亮、伊香賀俊治、 苅尾七臣、桑原光巨、中村正吾、 中島侑江、白石冨香、 松本実紗
2. 発表標題 冬季における室間温度差及び床表面温度が血圧に及ぼす影響の評価
3. 学会等名 2018年度日本建築学会大会（東北）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中島侑江、伊香賀俊治、Steven Schmidt、小野万里、星旦二、安藤真太郎
2. 発表標題 経済的満足度を考慮した要介護高齢者の冬季住宅室温とFrailの関連
3. 学会等名 2018年度日本建築学会大会（東北）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松本実紗、伊香賀俊治、山川義徳、内田泰史、村上周三、安藤真太郎、満倉靖恵、中島侑江
2. 発表標題 実測調査に基づく室温の平年値を用いた冬季住宅内温熱環境と脳健康指標との関連住環境が脳機能に及ぼす影響に関する実測調査（その5）
3. 学会等名 2018年度日本建築学会大会（東北）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 仁部佳央里、安藤真太郎、伊香賀俊治、山川義徳、内田泰史、満倉靖恵、篠原幸志朗、藤田浩平
2. 発表標題 冬季の室内温熱環境が高齢者の転倒要因へ与える影響検 証住環境が脳機能に及ぼす影響に関する実測調査（その6）
3. 学会等名 2018年度日本建築学会大会（東北）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤田浩平、安藤真太郎、伊香賀俊治、山川義徳、内田泰史、満倉靖恵、篠原幸志朗、仁部佳央里
2. 発表標題 冬季の室内温熱環境が身体、脳機能へ及ぼす影響に関する共分散構造分析住環境が脳機能に及ぼす影響に関する実測調査（その7）
3. 学会等名 2018年度日本建築学会大会（東北）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小野万里、伊香賀俊治、中島侑江、白石冴香、松本実紗
2. 発表標題 要介護高齢者の冬季住宅内温熱環境と季節別血圧値に関する実態調査
3. 学会等名 2018年度日本建築学会大会（東北）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 白石冨香、伊香賀俊治、村田義郎、市原真希、張本和芳、中島侑江
2. 発表標題 冬季における幼稚園の温熱環境と園児の身体活動量に関する日別比較
3. 学会等名 2018年度日本建築学会大会（東北）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 清水賢、伊香賀俊治、加藤秀弥、村田義郎、市原真希、張本和芳、岡崎愛、関紅美花
2. 発表標題 学校施設における生徒の活動習慣が学習効率に及ぼす影響に関する実態調査 第1報 実態調査の概要及び教室環境の把握
3. 学会等名 2018年度日本建築学会大会（東北）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加藤秀弥、伊香賀俊治、村田義郎、清水賢、市原真希、張本和芳、岡崎愛、関紅美花
2. 発表標題 学校施設における生徒の活動習慣が学習効率に及ぼす影響に関する実態調査 第2報 生徒の活動習慣と学習効率の関係
3. 学会等名 2018年度日本建築学会大会（東北）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大門俊介、川久保俊、三田彰、村上周三、伊香賀俊治、那須詩織
2. 発表標題 見守り支援ロボットの活用に関する研究（その1） 潜在的要素の把握を目的としたアンケート調査の概要
3. 学会等名 2018年度日本建築学会大会（東北）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 野澤将太、川久保俊、三田彰、村上周三、伊香賀俊治、大門俊介、那須詩織
2. 発表標題 見守り支援ロボットの活用に関する研究(その2) アンケート調査の分析に基づく見守り支援ロボットの需要の定量化
3. 学会等名 2018年度日本建築学会大会(東北)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石戸拓朗、伊香賀俊治、川久保俊
2. 発表標題 公開統計情報に基づく住民の貧困状況と冬季死亡者増加の関係の分析
3. 学会等名 2018年度日本建築学会大会(東北)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 奈良玲伊、川久保俊、伊香賀俊治、村上周三、星旦二、安藤真太郎、那須詩織、大門俊介
2. 発表標題 共分散構造分析に基づく住環境と居住者の健康状態の関係性の定量化
3. 学会等名 2018年度日本建築学会大会(東北)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 馬淵勝之、伊香賀俊治、中島侑江、石戸拓朗、佐藤亮太、伊藤真紀
2. 発表標題 住民の歩行時間における地域環境の影響の評価
3. 学会等名 2018年度日本建築学会大会(東北)
4. 発表年 2018年



1. 発表者名 浅倉弘晃、伊香賀俊治、志波徹、藤本祐子、中島侑江、白石冴香、松本実紗
2. 発表標題 夏季及び冬季の睡眠の質の向上をもたらす寝室温熱環境に関する介入調査
3. 学会等名 2018年度空気調和・衛生工学会大会（名古屋）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小野万里、伊香賀俊治、中島侑江、白石冴香、松本実紗
2. 発表標題 要介護高齢者の冬季住宅内温熱環境と血圧に関する多変量解析
3. 学会等名 2018年度空気調和・衛生工学会大会（名古屋）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中島侑江、伊香賀俊治、Steven Schmidt、小野万里、星旦二、安藤真太郎
2. 発表標題 要介護高齢者の冬季住宅内温熱環境とFrailの構成概念に関する実態調査
3. 学会等名 2018年度空気調和・衛生工学会大会（名古屋）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松本実紗、伊香賀俊治、山川義徳、内田泰史、村上周三、安藤真太郎、満倉靖恵、中島侑江
2. 発表標題 住宅内温熱環境と脳容積値及び脳神経拡散度との関連
3. 学会等名 2018年度空気調和・衛生工学会大会（名古屋）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加藤秀弥、伊香賀俊治、村田義郎、清水賢、市原真希、張本和芳、岡崎愛、関紅美花
2. 発表標題 生徒の活動習慣と教室環境が学習効率に及ぼす影響についての実態調査
3. 学会等名 2018年度空気調和・衛生工学会大会（名古屋）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安部祐子、白石靖幸、安藤真太郎、伊香賀俊治、林立也
2. 発表標題 WEB アンケートに基づいた執務者の健康、作業効率と各種環境関連指標の回帰分析
3. 学会等名 2018年度空気調和・衛生工学会大会（名古屋）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 四方路慶樹、伊香賀俊治、藤野善久、平岡雅哉、佐藤正章、鈴木雄介、権藤尚、海塩渉、関紅美花
2. 発表標題 執務環境と住環境が心身の健康と知的生産性に及ぼす影響（第1報）アンケート調査に基づく統計分析
3. 学会等名 2018年度空気調和・衛生工学会大会（名古屋）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 権藤尚、鈴木雄介、海塩渉、平岡雅哉、佐藤正章、伊香賀俊治、四方路慶樹、関紅美花
2. 発表標題 執務環境と住環境が心身の健康と知的生産性に及ぼす影響（第2報）アンケート調査と生体情報の関連
3. 学会等名 2018年度空気調和・衛生工学会大会（名古屋）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 関紅美花、伊香賀俊治、田中宏治、高井啓明、菊池卓郎、田中規敏、西田恵
2. 発表標題 オフィス共用空間における身体活動が知的生産性に及ぼす影響に関する被験者実験
3. 学会等名 2018年度空調和・衛生工学会大会（名古屋）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤田浩平、安藤真太郎、伊香賀俊治、仁部佳央里
2. 発表標題 冬期の室内温熱環境と夜間頻尿とのマルチレベル分析
3. 学会等名 2018年度空調和・衛生工学会大会（名古屋）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 白石冴香、伊香賀俊治、中島 侑江
2. 発表標題 幼稚園の温熱環境が園児の身体活動、運動能力に及ぼす影響
3. 学会等名 2018年度空調和・衛生工学会大会（名古屋）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岡崎愛、伊香賀俊治、三浦真由美、上田悠、太宰龍太、水谷佳奈
2. 発表標題 床近傍の低温環境が知的生産性に及ぼす影響に関する夏季被験者実験
3. 学会等名 2018年度空調和・衛生工学会大会（名古屋）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安部祐子・白石靖幸・安藤真太郎・伊香賀俊治・林立也・藤野善久・久保達彦
2. 発表標題 執務者の作業効率・健康増進のための執務環境主観評価ツールの開発（その1）評価ツール及びWEBアンケートの概要
3. 学会等名 2018年度日本建築学会九州支部研究発表会（大分）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安部祐子・白石靖幸・安藤真太郎・伊香賀俊治・林立也・藤野善久・久保達彦
2. 発表標題 執務者の作業効率・健康増進のための執務環境主観評価ツールの開発（その2）WEBアンケートの分析結果
3. 学会等名 2018年度日本建築学会九州支部研究発表会（大分）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮崎笑里・坂本將・安藤真太郎・伊香賀俊治
2. 発表標題 ソーシャル・キャピタルを介した主観的健康感への影響構造モデル ロジスティック回帰分析に基づくコミュニティの健康規定要因の検証（その1）
3. 学会等名 2018年度日本建築学会九州支部研究発表会（大分）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坂本將・安藤真太郎・伊香賀俊治・宮崎笑里
2. 発表標題 マルチレベルモデルによる居場所を規定する地域環境要因分析 ロジスティック回帰分析に基づくコミュニティの健康要因の検証（その2）
3. 学会等名 2018年度日本建築学会九州支部研究発表会（大分）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 仁部佳央里・藤田浩平・安藤真太郎・伊香賀俊治・藤野善久・久保達彦
2. 発表標題 秋期・冬期の室内温熱環境と排尿症状とのマルチレベル分析
3. 学会等名 2018年度日本建築学会九州支部研究発表会（大分）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤田浩平・仁部佳央里・安藤真太郎・伊香賀俊治
2. 発表標題 室内温熱環境が上肢・下肢筋力へ与える影響の多変量解析 暖房方式が身体機能へ与える影響検証のための実測調査（その 1）
3. 学会等名 2018年度日本建築学会九州支部研究発表会（大分）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤田浩平・仁部佳央里・安藤真太郎・伊香賀俊治
2. 発表標題 マルチレベル分析に基づく座位行動への影響評価 暖房方式が身体機能へ与える影響検証のための実測調査（その 2）
3. 学会等名 2018年度日本建築学会九州支部研究発表会（大分）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yukie NAKAJIMA, Toshiharu IKAGA, Shintaro ANDO, Tanji HOSHI
2. 発表標題 Influence of environmental humidity on oral dryness among nursing home residents in Japan
3. 学会等名 Indoor Air 2018（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kumika SEKI, Toshiharu IKAGA, Koji TANAKA, Hiroaki TAKAI, Takuro KIKUCHI, Kitoshi TANAKA, Megumi NISHIDA
2. 発表標題 Beneficial effects of physical activity in the office on workplace productivity
3. 学会等名 Indoor Air 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Misa MATSUMOTO, Toshiharu IKAGA, Yoshinori YAMAKAWA, Yasufumi UCHIDA, Shuzo MURAKAMI, Shintaro Ando, Yasue MITSUKURA, Yukie HAYASHI
2. 発表標題 Relationship between indoor temperature in winter and Brain Healthcare Quotient
3. 学会等名 Indoor Air 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takuro ISHITO, Toshiharu IKAGA, Shun KAWAKUBO
2. 発表標題 Indoor Air 2018
3. 学会等名 Analysis of the Relationship between Proportion of Well-insulated Homes and Excess Winter Mortality Based on Statistical Information in Japan (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hideya Kato, Toshiharu Ikaga, Maki Ichihara, Yoshio Murata, Kumika Seki
2. 発表標題 Physical activity intervention for improving learning efficiency
3. 学会等名 ISAIA 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kumika Seki, Toshiharu Ikaga, Koji Tanaka, Hiroaki Takai, Kitoshi Tanaka
2. 発表標題 Experimental Effects of In-Office Physical Activity on Workplace Productivity
3. 学会等名 ISAIA 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Saeka Shiraiishi, Toshiharu Ikaga, Yukie Nakajima
2. 発表標題 Effect of the Thermal Environment in Kindergartens on Children's Physical Activity and Athletic
3. 学会等名 ISAIA 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takuro Ishito, Toshiharu Ikaga, Shun Kawakubo
2. 発表標題 Analysis of the Relationship between Social Deprivation and Excess Winter Mortality Based on Statistical Information in Japan
3. 学会等名 EcoBalance 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yukie Nakajima, Steven M Schmidt, Agneta Malmgren Fange, Tanji Hoshi, Mari Ono, Toshiharu Ikaga
2. 発表標題 Cold, poor and frail: a Cross-sectional study on community dwelling older people in Japan
3. 学会等名 GSA 2018 Annual Scientific Meeting (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hiroataka Asakura, Toshiharu Ikaga, Yukie Nakajima, Emi Morita, Daisuke Hori, Shinichiro Sasahara, Ichiyo Matsuzaki, Masashi Yanagisawa, Sakae Miyagi, Hiromasa Tsujiguchi, Akinori Hara, Hiroyuki Nakamura
2. 発表標題 Field survey on bedroom thermal environment and sleep quality in Japan
3. 学会等名 ICEERB 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mari Ono, Yukie Nakajima, Saeka Shiraishi, Misa Matsumoto, Toshiharu Ikaga
2. 発表標題 Field Survey of Medical History and Use of the Japanese “Kotatsu” Heating System in Winter among Older Adults in Japan
3. 学会等名 ICEERB 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yukie Nakajima, Mari Ono, Shintaro Ando, Tanji Hoshi, Toshiharu Ikaga
2. 発表標題 Retrospective study of cold indoor temperature and healthy life expectancy among community-dwelling older adults
3. 学会等名 ICEERB 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Toshiharu Ikaga
2. 発表標題 Housing Insulation and Health Intervention Study in Japan
3. 学会等名 Pulse of Asia 2018 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年



1. 発表者名 Wataru Umishio, Toshiharu Ikaga, Kazuomi Kario, Yoshihisa Fujino, Tanji Hoshi, Shintaro Ando, Masaru Suzuki and Shuzo Murakami
2. 発表標題 Impact of Indoor Temperature on Morning Home Blood Pressure in Winter: Baseline Data from a Non-Randomized Controlled Trial in Japan
3. 学会等名 Pulse of Asia 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Toshiharu Ikaga
2. 発表標題 Field survey on Impact of living environments on brain, cardiovascular, respiratory and locomotive system and co-benefit evaluation of disease and long-term care prevention
3. 学会等名 The 18th Science Council of Asia Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Toshiharu Ikaga
2. 発表標題 Field survey on Impact of living environments on brain, cardiovascular, respiratory and locomotive system and co-benefit evaluation of disease and long-term care prevention
3. 学会等名 International Conference on Health and Environment in Human Settlements (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Toshiharu Ikaga
2. 発表標題 Field survey on Impact of living environments on brain, cardiovascular, respiratory and locomotive system and co-benefit evaluation of disease and long-term care prevention
3. 学会等名 2018 International Workshop on Energy and IEQ in Chinese Residences (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊香賀俊治
2. 発表標題 スマートウェルネス住宅調査からわかった最新の住宅が与える国民の健康について
3. 学会等名 (一社)健康・省エネ住宅を推進する国民会議(経団連会館国際会議場)(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Toshiharu IKAGA
2. 発表標題 Valorization of the local resource by the city of Yusuhara
3. 学会等名 WOODRISE - International Congress, Bordeaux, France, 12-15 September 2017(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 伊香賀俊治
2. 発表標題 住まいと生活習慣病
3. 学会等名 日本公衆衛生学会市民公開シンポジウム(鹿児島)(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Toshiharu IKAGA
2. 発表標題 Promotion of Smart Wellness Housing
3. 学会等名 The 9th Forum of Theory and Practice on Healthy Housing 2017(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 伊香賀俊治
2. 発表標題 国土交通省スマートウェルネス住宅等推進調査事業中間報告
3. 学会等名 (一社)健康・省エネ住宅を推進する国民会議 健康省エネ国際シンポジウム(経団連会館国際会議場)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 関紅美花、伊香賀俊治、田中宏治、高井啓明、菊池卓郎、田中規敏、西田 恵、西村三香子
2. 発表標題 オフィスにおける歩行を伴う身体活動が知的生産性に及ぼす影響に関する被験者実験
3. 学会等名 2017年度日本建築学会関東支部研究発表会(東京)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 四方路慶樹、伊香賀俊治、平岡雅哉、佐藤正章、鈴木雄介、権藤 尚、海塩 渉、関紅美花
2. 発表標題 オフィス環境が心身の健康と知的生産性に及ぼす影響
3. 学会等名 2017年度日本建築学会関東支部研究発表会(東京)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 黒木 湧、伊香賀俊治、村上周三、川久保俊、安藤真太郎、林 侑江、石戸拓朗、佐藤亮太
2. 発表標題 全国実測調査に基づく冬季の住宅室温の推計モデルの導出
3. 学会等名 2017年度日本建築学会関東支部研究発表会(東京)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加藤秀弥、伊香賀俊治、市原真希、村田義郎、西村三香子、岡崎 愛、関紅美花
2. 発表標題 身体活動の促進が生徒の学習効率に与える影響に関する介入調査
3. 学会等名 2017年度日本建築学会関東支部研究発表会（東京）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 林 侑江、伊香賀俊治、小野万里、星 旦二、安藤真太郎
2. 発表標題 地域在住高齢者の要介護認定年齢と冬季住宅内温熱環境に関する後ろ向き研究
3. 学会等名 2017年度日本建築学会関東支部研究発表会（東京）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小野万里、伊香賀俊治、林 侑江、石渡拓也、倉部豊弘、白石冴香、松本実紗
2. 発表標題 住宅内温熱環境の主観評価と虚弱指標に関するロジスティック回帰分析
3. 学会等名 2017年度日本建築学会関東支部研究発表会（東京）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 白石冴香、伊香賀俊治、林 侑江、石渡拓也、倉部豊弘
2. 発表標題 冬季の住宅内温熱環境と子どもの低体温に関する実測調査
3. 学会等名 2017年度日本建築学会関東支部研究発表会（東京）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 浅倉弘亮、伊香賀俊治、海塩 渉、石渡拓也、林 侑江、倉部豊弘、白石冴香、松本実紗
2. 発表標題 冬季の住宅内温熱環境と入浴方法に関する多重ロジスティック回帰分析
3. 学会等名 2017年度日本建築学会関東支部研究発表会（東京）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 馬淵勝之、伊香賀俊治、小熊祐子、齋藤義信、林 侑江、石戸拓朗、佐藤亮太
2. 発表標題 郊外住宅地の2地区における高齢者の身体活動量と地域環境の関係
3. 学会等名 2017年度日本建築学会関東支部研究発表会（東京）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊香賀俊治、山川義徳、内田泰史、村上周三、安藤真太郎、満倉靖恵、松本実紗、林侑江
2. 発表標題 MRI検査に基づく脳健康指標と住環境測定の概要、住環境が脳機能に及ぼす影響に関する実測調査（その1）
3. 学会等名 2017年度日本建築学会大会（中国）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松本実紗、伊香賀俊治、山川義徳、内田泰史、村上周三、安藤真太郎、満倉靖恵、林侑江
2. 発表標題 冬季の住宅内温熱環境と脳健康指標の関係分析、住環境が脳機能に及ぼす影響に関する実測調査（その2）
3. 学会等名 2017年度日本建築学会大会（中国）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤田浩平、安藤真太郎、伊香賀俊治、山川義徳、内田泰史、満倉靖恵
2. 発表標題 冬季の住宅温熱環境と下肢筋力・脳健康指標との関連分析、住環境が脳機能に及ぼす影響に関する実測調査（その3）
3. 学会等名 2017年度日本建築学会大会（中国）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山口素直、山川義徳、満倉靖恵、内田泰史、伊香賀俊治、安藤真太郎
2. 発表標題 簡易脳波計を用いた住宅の寒暖とストレスの関係調査、住環境が脳機能に及ぼす影響に関する実測調査（その4）
3. 学会等名 2017年度日本建築学会大会（中国）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 村上周三、吉村健清、吉野博、苅尾七臣、伊香賀俊治、星旦二、藤野善久、久保達彦、安藤真太郎
2. 発表標題 スマートウェルネス住宅等推進調査事業の概要、住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査（その1）
3. 学会等名 2017年度日本建築学会大会（中国）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 安藤真太郎、村上周三、伊香賀俊治、藤野善久、久保達彦、鈴木昌、川久保俊、大束開智
2. 発表標題 居間・寝室・脱衣所の温度測定結果、住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査（その2）
3. 学会等名 2017年度日本建築学会大会（中国）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 海塩渉、伊香賀俊治、村上周三、苅尾七臣、藤野善久、安藤真太郎、久保達彦、鈴木昌
2. 発表標題 ベースライン調査時点の家庭血圧と室温の関係、住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査（その3）
3. 学会等名 2017年度日本建築学会大会（中国）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大束開智、伊香賀俊治、村上周三、藤野善久、安藤真太郎、久保達彦、鈴木昌、川久保俊
2. 発表標題 ベースライン調査時点の疾病別有病割合と室温の関係、住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査（その4）
3. 学会等名 2017年度日本建築学会大会（中国）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 平田晃貴、安藤真太郎、村上周三、伊香賀俊治、藤野善久、久保達彦、鈴木昌、川久保俊
2. 発表標題 夜間頻尿障害に関する室温の影響検証、住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査（その5）
3. 学会等名 2017年度日本建築学会大会（中国）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 那須詩織、川久保俊、村上周三、伊香賀俊治、藤野善久、久保達彦、安藤真太郎、鈴木昌、加藤祐未
2. 発表標題 CASBEE健康チェックリストのスコア変動と有訴割合に関する分析、住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査（その6）
3. 学会等名 2017年度日本建築学会大会（中国）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 林侑江、伊香賀俊治、星旦二、安藤真太郎
2. 発表標題 有料老人ホームの冬季温湿度が入居者の要介護度悪化に及ぼす影響
3. 学会等名 2017年度日本建築学会大会（中国）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石渡拓也、伊香賀俊治、平田潤一郎、林侑江
2. 発表標題 断熱性能・床仕上げ材による動脈硬化度に応じた冬季の血流及び血圧への影響
3. 学会等名 2017年度日本建築学会大会（中国）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 倉部豊弘、伊香賀俊治、田中マキ子、横山正博、大束開智、林侑江
2. 発表標題 冬季住宅内温熱環境に対する住まい方指導の介入効果
3. 学会等名 2017年度日本建築学会大会（中国）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西村三香子、伊香賀俊治、平田潤一郎
2. 発表標題 内装木質化による視環境の変化が睡眠と日中の知的生産性に及ぼす影響
3. 学会等名 2017年度日本建築学会大会（中国）
4. 発表年 2017年



1. 発表者名 石戸拓朗、伊香賀俊治、川久保俊、大束開智
2. 発表標題 全国自治体における地域特性を考慮した住環境整備状況の評価
3. 学会等名 2017年度日本建築学会大会（中国）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岡崎愛、伊香賀俊治、平田潤一郎、西村三香子
2. 発表標題 床近傍室温が交感神経系活性度・皮膚温・冷え自覚に及ぼす影響
3. 学会等名 2017年度日本建築学会大会（中国）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 白石冨香、伊香賀俊治、林侑江、石渡拓也、倉部豊弘
2. 発表標題 幼稚園・自宅の室内温熱環境と幼稚園欠席率との関連
3. 学会等名 2017年度日本建築学会大会（中国）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 関紅美花、伊香賀俊治、市原真希、張本和芳、西村三香子
2. 発表標題 オフィスにおける昼光利用と歩行の促進が知的生産性に与える影響（第2報）、休憩時の歩行と共用空間の環境計画の有効性
3. 学会等名 2017年度日本建築学会大会（中国）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 林侑江、伊香賀俊治、安藤真太郎、星旦二
2. 発表標題 介護施設の湿度環境と入居者の口腔内乾燥感の順序ロジスティック回帰分析
3. 学会等名 2017年度空気調和・衛生工学会大会（高知）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 倉部豊弘、伊香賀俊治、田中マキ子、横山正博、大束開智、林侑江
2. 発表標題 冬季の住まい方指導が血圧に及ぼす影響の介入調査
3. 学会等名 2017年度空気調和・衛生工学会大会（高知）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西村三香子、伊香賀俊治、平田潤一郎
2. 発表標題 木質内装空間が自律神経状態を介して知的生産性に及ぼす影響に関する被験者実験
3. 学会等名 2017年度空気調和・衛生工学会大会（高知）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岡崎愛、伊香賀俊治、平田潤一郎、西村三香子
2. 発表標題 冬季の床近傍室温が冷えを介して知的生産性に及ぼす影響
3. 学会等名 2017年度空気調和・衛生工学会大会（高知）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 白石冴香、伊香賀俊治、林侑江、石渡拓也、倉部豊弘
2. 発表標題 幼稚園の室内環境と保育士の健康・労働満足度との関連
3. 学会等名 2017年度空気調和・衛生工学会大会（高知）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 関紅美花、伊香賀俊治、市原真希、張本和芳、Julia Ayuso、西村三香子
2. 発表標題 オフィスの昼光利用が知的生産性に及ぼす影響に関する被験者実験
3. 学会等名 2017年度空気調和・衛生工学会大会（高知）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松本実紗、伊香賀俊治、山川義徳、内田泰史、村上周三、安藤真太郎、満倉靖恵、林侑江
2. 発表標題 冬季の室温温度差が脳健康指標に及ぼす影響
3. 学会等名 2017年度空気調和・衛生工学会大会（高知）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 海塩渉、伊香賀俊治、安藤真太郎
2. 発表標題 高断熱住宅への住み替えによる家庭血圧変化 - 前後比較研究 -
3. 学会等名 第29回血圧管理研究会（京都）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石戸拓朗、伊香賀俊治、川久保俊
2. 発表標題 公開統計情報に基づく高断熱住宅普及と冬季志望者の関係の分析
3. 学会等名 第13回日本LCA学会研究発表会（東京）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kumika Seki, Toshiharu Ikaga, Koji Tanaka, Hiroaki Takai, Takuro Kikuchi, Tokitoshi Tanaka, Megumi Nishi, Mikako Nishimura
2. 発表標題 Effects of promoting physical activity in the office on workplace productivity of office workers
3. 学会等名 international council for research and innovation in building and construction 2017 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mari Ono, Yukie Hayashi, Takuya Ishiwata, Toyohiro Kurabe, Saeka Shiraishi, Misa Matsumoto and Toshiharu Ikaga
2. 発表標題 Relationship between perceived indoor temperature and contributory factors of frailty
3. 学会等名 international council for research and innovation in building and construction 2017 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yukie Hayashi, Toshiharu Ikaga, Shintaro Ando and Tanji Hoshi
2. 発表標題 Ameliorating hypertension by regulating indoor temperature: Blood pressure of nursing home residents before and after insulation retrofitting
3. 学会等名 international council for research and innovation in building and construction 2017 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yukie Hayashi, Toshiharu Ikaga, Shintaro Ando, Steven Schmidt, Tanji Hoshi
2. 発表標題 International Association of Gerontology and Geriatrics 2017
3. 学会等名 Regulating Indoor Temperature and Humidity: Successful Care Prevention in Warmer Nursing Homes in Japan (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Toyohiro Kurabe, Tanji Hoshi, Yukie Hayashi, Toshiharu Ikaga
2. 発表標題 Effects of the Housing Envelope and Living Behavior on Body Temperature in the Elderly: A Field Survey
3. 学会等名 Healthy Buildings 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Takuya Ishiwata, Junichiro Hirata, Yusuke Nakajima and Yukie Hayashi, Toshiharu Ikaga
2. 発表標題 Experimental study on blood-pressure effect of thermal insulation and flooring in winter
3. 学会等名 Healthy Buildings 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yukie Hayashi, Toshiharu Ikaga, Shintaro Ando, and Tanji Hoshi
2. 発表標題 Event history analysis of indoor thermal environment and care-requiring conditions of residents in nursing homes
3. 学会等名 SCIENCE, TECHNOLOGY, and INNOVATION FOR INCLUSIVE DEVELOPMENT (17th Conference of the Science Council of Asia) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 上田悠、三浦真由美、原山和也、水谷佳奈、伊香賀俊治、土屋遼太
2. 発表標題 冬期の空調制御が執務者の知的生産性に及ぼす影響（第1報）室温上昇時の作業成績
3. 学会等名 2017年度空気調和・衛生工学会大会（高知）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 土屋遼太、伊香賀俊治、三浦真由美、原山和也、上田悠、水谷佳奈
2. 発表標題 冬期の空調制御が執務者の知的生産性に及ぼす影響（第2報）室温変動制御時の作業成績
3. 学会等名 2017年度空気調和・衛生工学会大会（高知）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 篠原幸志朗、安藤真太郎、伊香賀俊治
2. 発表標題 マルチレベル分析に基づく室内温熱環境による身体活動促進効果の検証、地方都市在住居住者を対象とした基礎的検討
3. 学会等名 2017年度空気調和・衛生工学会大会（高知）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤田浩平、安藤真太郎、伊香賀俊治、山川義徳、内田泰史、満倉靖恵、松本実紗、篠原幸志朗
2. 発表標題 高齢者の身体・脳機能測定に基づく室内温熱環境のリスク評価
3. 学会等名 2017年度空気調和・衛生工学会大会（高知）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 市原真希、伊香賀俊治、関紅美花、張本和芳、西村三香子
2. 発表標題 オフィスにおける昼光利用と歩行の促進が知的生産性に与える影響（第1報）被験者実験の概要と昼光利用の効果
3. 学会等名 2017年度日本建築学会大会（中国）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 前川拓美、安藤真太郎、伊香賀俊治、星旦二、海塩渉
2. 発表標題 中山間地域におけるフィールド調査に基づく循環器疾患発病リスクの研究（その3）4年間の生存データによる死亡リスクの検証
3. 学会等名 2017年度日本建築学会大会（中国）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 加藤祐未、川久保俊、出口清孝、伊香賀俊治、村上周三、星旦二、安藤真太郎
2. 発表標題 多変量解析に基づく住環境と疾病別有病割合の関係性の定量化
3. 学会等名 2017年度日本建築学会大会（中国）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松尾諒、川久保俊、伊香賀俊治、山口歩太
2. 発表標題 死亡票データに基づく全国市区町村の季節間健康格差の実態把握
3. 学会等名 2017年度日本建築学会大会（中国）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤田 浩平、篠原 幸志朗、安藤 真太郎、伊香賀 俊治
2. 発表標題 冬季の温熱環境が転倒要因へ及ぼす影響に関する共分散構造分析
3. 学会等名 2017年度日本建築学会九州支部研究発表会（鹿児島）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 仁部 佳央里、藤田 浩平、安藤 真太郎、伊香賀 俊治
2. 発表標題 マルチレベル分析に基づく温熱環境による夜間頻尿への影響評価
3. 学会等名 2017年度日本建築学会九州支部研究発表会（鹿児島）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安部祐子、白石靖幸、安藤真太郎、伊香賀俊治、林立也
2. 発表標題 WEB アンケートに基づいた執務者の健康，作業効率と執務環境の回帰分析
3. 学会等名 2017年度日本建築学会九州支部研究発表会（鹿児島）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 篠原 幸志朗、安藤 真太郎、伊香賀 俊治
2. 発表標題 マルチレベル分析に基づく室内温熱環境による身体機能への影響
3. 学会等名 2017年度日本建築学会九州支部研究発表会（鹿児島）
4. 発表年 2018年



1. 発表者名 前川 拓美、安藤 真太郎、伊香賀 俊治、星 旦二、海塩 渉
2. 発表標題 高血圧性疾患のコホート調査に基づく高断熱化の費用対効果分析
3. 学会等名 2017年度日本建築学会九州支部研究発表会（鹿児島）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 伊香賀 俊治、星 旦二、小川 晃子、安藤 真太郎	4. 発行年 2017年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 192
3. 書名 すこやかに住まう すこやかに生きる	

1. 著者名 伊香賀俊治、五十嵐太郎	4. 発行年 2017年
2. 出版社 エクスナレッジ	5. 総ページ数 143
3. 書名 窓と建築をめぐる50のはなし	

1. 著者名 Hoshi, Tanji, Kodama, Sayuri	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Lessons from the Japanese Aging Cohort Studies	5. 総ページ数 192
3. 書名 The Structure of Healthy Life Determinants	

〔産業財産権〕

〔その他〕

慶應義塾大学理工学部伊香賀俊治研究室ホームページ  
<http://www.ikaga.sd.keio.ac.jp/>  
 住環境が脳・循環器・呼吸器・運動器に及ぼす影響実測と疾病・介護予防便益評価  
<https://ikaga-healthy-life.jp/>  
 ゆすはら健康長寿の里づくりプロジェクト「健康長寿を実現する住まいとコミュニティの創造」  
<http://www.ikaga-yusuhara.jp/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	満倉 靖恵  (Mitsukura Yasue)  (60314845)	慶應義塾大学・理工学部(矢上)・教授   (32612)	
研究分担者	福永 興吉  (Fukunaga Koichi)  (60327517)	慶應義塾大学・医学部(信濃町)・教授   (32612)	
研究分担者	小熊 祐子  (Oguma Yuko)  (00255449)	慶應義塾大学・スポーツ医学研究センター(日吉)・准教授   (32612)	
研究分担者	星 旦二  (Hoshi Tanji)  (00190190)	東京都立大学・都市環境科学研究科・特任教授   (22604)	
研究分担者	伊藤 史子  (Ito Fumiko)  (80297613)	東京都立大学・都市環境科学研究科・教授   (22604)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	苅尾 七臣  (Kario Kazuomi)  (60285773)	自治医科大学・医学部・教授    (32202)	
研究分担者	星出 聡  (Hoshide Satoshi)  (90326851)	自治医科大学・医学部・教授    (32202)	
研究分担者	藤野 善久  (Fijino Yoshihisa)  (80352326)	産業医科大学・産業生態科学研究所・教授    (37116)	
研究分担者	久保 達彦  (Kubo Tatsuhiko)  (00446121)	広島大学・医系科学研究科(医)・教授    (15401)	
研究分担者	中村 裕之  (Nakamura Hiroyuki)  (30231476)	金沢大学・医学系・教授    (13301)	
研究分担者	福島 富士子  (Fukushima Fujiko)  (80280759)	東邦大学・看護学部・教授    (32661)	
研究分担者	鈴木 昌  (Suzuki Masaru)  (70265916)	東京歯科大学・歯学部・教授    (32650)	
研究分担者	山川 義徳  (Yamakawa Yoshinori)  (80447945)	京都大学・オープンイノベーション機構・客員教授    (14301)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	渡辺 麻衣子  (Watanabe Maiko)  (00432013)	国立医薬品食品衛生研究所・衛生微生物部・室長    (82601)	
研究 分担者	白石 靖幸  (Shiraishi Yasuyuki)  (50302633)	北九州市立大学・国際環境工学部・教授    (27101)	
研究 分担者	安藤 真太郎  (Ando Shintaro)  (60610607)	北九州市立大学・国際環境工学部・准教授    (27101)	
研究 分担者	川久保 俊  (Kawakubo Shun)  (50599389)	法政大学・デザイン工学部・教授    (32675)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協力者	海塩 渉  (Umishio Wataru)  (90881863)	東京工業大学・環境・社会理工学院・助教    (12608)	
研究 協力者	内田 泰史  (Uchida Yasufumi)	医療法人恕泉会・内田脳神経外科・理事長	
連携 研究者	森田 えみ  (Morita Emi)  (60551968)	国立研究開発法人森林研究・整備機構・森林総合研究所・主任研究員    (82105)	筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構 准教授

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
連携研究者	富岡 由美  (Tomioka Yumi)  (70305853)	東邦大学・看護学部・准教授    (32661)	
連携研究者	峰 友紗  (Mine Tomosa)  (90587651)	尚絅学院大学・総合人間科学系・講師    (31311)	
連携研究者	坪井 聡  (Tsuboi Satoshihi)  (20453011)	福島県立医科大学・医学部・博士研究員    (21601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
スウェーデン	ルンド大学医学部保健学科			
ニュージーランド	オタゴ大学公衆衛生学部			